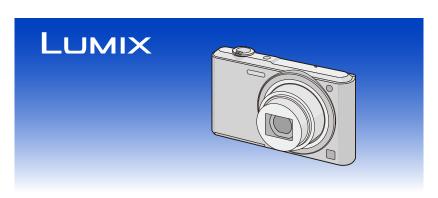
Panasonic

取扱説明書 詳細操作編

デジタルカメラ

品番 DMC-SZ3

このたびは、パナソニック製品をお買い上げいただき、まことにありがとうございます。

- 取扱説明書をよくお読みのうえ、正しく安全にお使いください。
- **ご使用前に「安全上のご注意」（取扱説明書 基本操作編）を必ずお読みください。**

困ったときは?

メッセージ表示：105 ページ
Q&A 故障かな？と思ったら：107 ページ

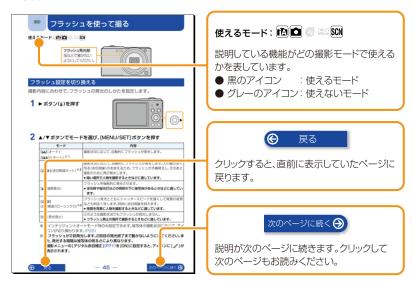
最新のサポート情報は、下記サポートサイトでご確認ください。

http://panasonic.jp/support/dsc/

VQT4S06-1
F1212KD1023

知りたいことの探し方

取扱説明書 詳細操作編では、知りたいことを以下のページから探すことができます。参照ページをクリックすると、該当ページへ移動するので、知りたいことを素早く探せます。

■ 本書の見方

- 本文中やさくいんの参照ページをクリックすると、該当ページへ移動します。
- Adobe Readerの画面上にある検索入力欄にキーワードを入力すると、入力したワードを検索し、該当ページへ移動します。
- お使いの Adobe Reader のバージョンによっては、操作方法などが異なる場合があります。

目次

撮影

再生・編集

他の機器との接続

その他・Q&A

「取扱説明書 詳細操作編」は、下記サポートサイトでもご覧いただけます。
http://panasonic.jp/support/dsc/

目的別かんたん目次

撮影について

再生について

ご使用の前に

■ 本機の取り扱いについて…

本機に、強い振動や衝撃、圧力をかけないでください。

- 下記のような状態で使用すると、レンズや液晶モニター、外装ケースが破壊される可能性があります。
  また、誤動作や、画像が記録できなくなることもあります。
  – 本機を落とす、またはぶつける
  – 本機をズボンのポケットに入れたまま座る、またはいっぱいになったかばんなどに無理に入れる
  – 本機に取り付けたストラップに、アクセサリーなどをぶら下げる
  – レンズ部や液晶モニターを強く押さえつける

本機は、防じん・防滴・防水仕様ではありません。
ほこり・水・砂などの多い場所でのご使用を避けてください。

- 下記のような場所で使用すると、レンズやボタンの隙間から液体や砂、異物などが入ります。故障などの原因になるだけでなく、修理できなくなることがありますので、特にお気をつけください。
  – 砂やほこりの多いところ
  – 雨の日や浜辺など水がかかるところ

■ 露付きについて（レンズが曇るとき）…

- 露付きは、温度差や湿度差があると起こります。レンズ汚れ、かび、故障の発生原因になりますのでお気をつけください。
- 露付きが起こった場合、電源を切り、2 時間ほどそのままにしてください。周囲の温度になじむと、曇りが自然に取れます。

■ 事前に必ず試し撮りをしてください

大切な撮影（結婚式など）は、必ず事前に試し撮りをし、正常に撮影や録音されていることを確かめてください。

■ 撮影内容の補償はできません

本機およびカードの不具合で撮影や録音されなかった場合の内容の補償についてはご容赦ください。

■ 著作権にお気をつけください

あなたが撮影や録音したものは、個人として楽しむ以外は、著作権法上権利者に無断では使用できません。個人として楽しむ目的であっても、撮影を制限している場合がありますのでお気をつけください。

■ 「使用上のお願い」も、併せてお読みください(P114)

付属品

付属品をご確認ください。

記載の品番は2013 年1 月現在のものです。変更されることがあります。

CD-ROM

- ソフトウェア
- 取扱説明書 詳細操作編（本書）
（パソコンにインストールしてお使いください）

ハンドストラップ
VFC4297

USB接続ケーブル
K1HY08YY0031

バッテリーパック
DMW-BCL7
（本文中では**バッテリー**と表記します）
- 充電してからお使いください。

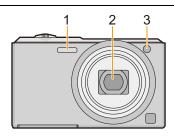
AC アダプター
VSK0771
（本文中では **AC アダプター（付属）**と表記します）

- 充電、撮影および再生に使用できます。

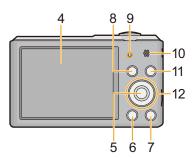
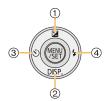
- **カードは別売です。カードを挿入していない場合は、内蔵メモリーで画像の記録や再生ができます。**
- 別売品については101 ページを参照してください。
- 包装材料などは商品を取り出したあと、適切に処理をしてください。
- 小物部品については乳幼児の手の届かないところに適切に保管してください。

付属品は販売店でお買い求めいただけます。
パナソニックの家電製品直販サイト「パナセンス」でお買い求めいただけるものもあります。
詳しくは「パナセンス」のサイトをご覧ください。
http://club.panasonic.jp/mall/sense/
携帯電話からもお買い求めいただけます。
http://p-mp.jp/cpm/

各部の名前

1 フラッシュ発光部(P44)
2 レンズ部(P8、115)
3 セルフタイマーランプ(P47)
AF 補助光 ランプ(P70)

4 液晶モニター(P41、103、114)
5 [MENU/SET] ボタン(P35)
6 [▶] 再生ボタン(P31)
7 [🗑/↩](消去/戻る)ボタン(P34)
8 [MODE] ボタン(P23、74)
9 充電ランプ(P14)
10 スピーカー(P37)
- スピーカーを指で塞がないようお気をつけください。音が聞こえにくくなります。

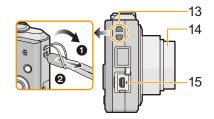
11 動画ボタン(P29)

12 カーソルボタン
①: ▲(上)/ 露出補正(P48)
②: ▼(下)/[DISP.](P41)
③: ◀(左)/ セルフタイマー(P47)
④: ▶(右)/ フラッシュ(P44)

本書では、カーソルボタンを下図のように、または、▲/▼/◀/▶ で説明しています。
例: ▼ (下)ボタンを押すとき

または ▼ **ボタンを押す**

13 ストラップ取り付け部(P22)
- 落下防止のため、必ずストラップを取り付けてご使用ください。

14 レンズ鏡筒

15 [AV OUT/DIGITAL] 端子(P14、91、94、96)
- バッテリーを充電するときにも使用する端子です。

16 ズームレバー(P42)

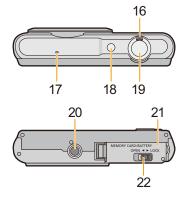
17 マイク
- マイクを指で塞がないようお気をつけください。

18 電源ボタン(P21)

19 シャッターボタン(P24、27)

20 三脚取り付け部
- ねじの長さが5.5 mm以上の三脚を取り付けると、本機を傷つける場合があります。

21 カード / バッテリー扉(P13、17)

22 開閉レバー(P13、17)

バッテリーを充電する

本機専用のACアダプター(付属)、USB接続ケーブル(付属)、バッテリーを使用してください。

- お買い上げ時、バッテリーは充電されていませんので、充電してからお使いください。
- 本機にバッテリーを入れた状態で充電してください。

本機の状態	充電
電源オフ	できます
電源オン	できません

- バッテリーチャージャー(別売:DMW-BTC11)でも充電できます。

■ 本機で使えるバッテリー(2013年1月現在)

本機で使えるバッテリーはDMW-BCL7です。

パナソニック純正品に非常によく似た外観をした模造品のバッテリーが一部国内外で流通していることが判明しております。このようなバッテリーの模造品の中には、一定の品質基準を満たした保護装置を備えていないものも存在しており、そのようなバッテリーを使用した場合には、発火・破裂等を伴う事故や故障につながる可能性があります。安全に商品をご使用いただくために、バッテリーを使用するパナソニック製の機器には、弊社が品質管理を実施して発売しておりますパナソニック純正バッテリーのご使用をお勧めいたします。
なお、弊社では模造品のバッテリーが原因で発生した事故・故障につきましては、一切の責任を負いかねますのでご了承ください。

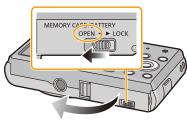
■ 電源の供給(給電)について

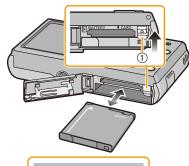
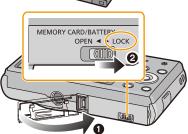
本機にバッテリーを入れた状態でACアダプター(付属)を使用すると、USB接続ケーブル(付属)を経由して、電源コンセントから電力を供給(給電)することができます。

- **撮影中はバッテリーを消耗する場合があります。バッテリー残量がなくなると、電源が切れます。**
- バッテリーが入っていないときは、給電はされません。
- ACアダプター(付属)を抜き差しする場合は、本機の電源を切ってから行ってください。

バッテリーを入れる

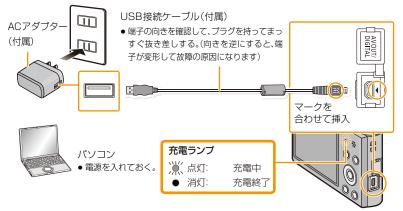
充電するために、バッテリーを本機に入れます。

1 **開閉レバーをOPEN側にスライドさせて、カード/バッテリー扉を開く**

2 **向きに気をつけて、確実に奥まで挿入し、バッテリーに①のレバーがかかっていることを確認する**
取り出すときは、①のレバーを矢印の方向に引いて取り出す

3 ❶ **カード/バッテリー扉を閉じる**

❷ **開閉レバーをLOCK側にスライドさせる**

- バッテリーの取り出しは、電源を切り、液晶モニターのLUMIX表示が完全に消えてから行ってください。（本機が正常に動作しなくなったり、カードや撮影内容が壊れる場合があります）

充電する

● 充電は周囲の温度が10 ℃～30 ℃（バッテリーの温度も同様）のところで行うことをお勧めします。

電源が切れていることを確認してください。

（電源コンセントから充電する）
ACアダプター（付属）と本機をUSB接続ケーブル（付属）でつなぎ、ACアダプター（付属）を電源コンセントに差し込む

（パソコンから充電する）
パソコンと本機をUSB接続ケーブル（付属）でつなぐ

- パソコンの仕様によっては、充電できないことがあります。
- 充電中にパソコンが休止状態になると、充電が中止されることがあります。
- 電源を接続していないノートパソコンと本機を接続した場合は、ノートパソコンの電池が消耗していきます。そのまま長時間放置しないでください。
- 必ずパソコンのUSB端子に接続してください。モニターやキーボード、プリンターのUSB端子やUSBハブには接続しないでください。

■ 充電ランプの表示について

点灯:　　**充電中**

消灯:　　**充電終了（充電終了後は、電源コンセントまたはパソコンとの接続を解除してください）**

■ 充電時間について

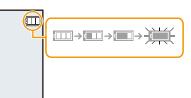
AC アダプター（付属）使用時

充電時間	約 150 分

- **充電時間はバッテリーを使い切ってから充電した場合の時間です。バッテリーの使用状況によって充電時間は変わります。高温/低温時や長時間使用していないバッテリーは充電時間が長くなります。**
- **パソコンからの充電時間は、パソコンの能力によって異なります。**

■ バッテリー残量表示について

残量表示が液晶モニターに表示されます。

- バッテリー残量がなくなると表示が赤に変わり点滅します。
  バッテリーを充電または満充電されたバッテリーと交換してください。

- **電源プラグの接点部周辺に金属類（クリップなど）を放置しないでください。ショートや発熱による火災や感電の原因になります。**
- 付属のUSB接続ケーブルまたは、当社製USB接続ケーブル（別売：DMW-USBC1）以外は使用しないでください。
- 付属のACアダプター以外は使わないでください。故障の原因になります。
- USB延長ケーブルは使用しないでください。
- ACアダプター（付属）とUSB接続ケーブル（付属）は本機専用です。他の機器に使用しないでください。故障の原因になります。
- 使用後は、バッテリーを取り出しておいてください。（長期間放置すると、バッテリーは消耗します）
- 使用後や充電中、充電直後などはバッテリーが温かくなっています。また使用中は本機も温かくなりますが、異常ではありません。
- バッテリー残量が残っていても、そのまま充電できますが、満充電での頻繁な継ぎ足し充電はお勧めできません。（バッテリーが膨らむ特性があります）
- 停電時など電源コンセントに異常が発生した場合は、充電が正常に終了しないことがあります。
  USB 接続ケーブル（付属）を抜き、接続し直してください。
- ACアダプター（付属）やパソコンにつないでも本機の充電ランプが点灯しない場合や点滅する場合は、充電に適した温度範囲ではないため、充電を一時停止している状態であり、本機の異常ではありません。
  周囲の温度が 10 ℃～30 ℃（バッテリーの温度も同様）のところでUSB接続ケーブル（付属）をつなぎ直し、再度充電をお試しください。

使用時間と撮影枚数の目安

■ 写真記録

記録可能枚数	約250枚	条件はCIPA規格で通常撮影モード時
撮影使用時間	約125分	

CIPA規格による撮影条件

- CIPAは、カメラ映像機器工業会（Camera & Imaging Products Association）の略称です。
- 温度23 ℃/湿度50%RH、液晶モニターを点灯
- 当社製のSDメモリーカード（32 MB）使用
- 付属バッテリー使用
- 電源を入れてから30秒経過後、撮影を開始（手ブレ補正[ON]設定時）
- **30秒間隔で1回撮影**、フラッシュを2回に1回フル発光
- 撮影ごとに、T端→W端またはW端→T端にズームを動かす
- 10枚撮影ごとに電源を切り、バッテリーの温度が下がるまで放置

記録可能枚数は撮影間隔によって変わります。撮影間隔が長くなると記録可能枚数は減少します。[例えば2分に1回撮影した場合は、上記（30秒に1回撮影）の枚数の約1/4になります]

■ 動画撮影

画質設定を[HD]で撮影時

撮影可能時間	約90分
実撮影可能時間	約45分

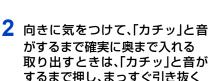
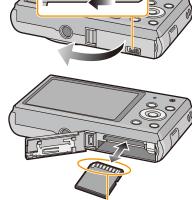
- 温度23 ℃/湿度50%RHの環境下での時間です。時間は目安にしてください。
- 実撮影可能時間とは、電源の入/切、撮影の開始/終了、ズーム操作などを繰り返したときに撮影できる時間です。
- 動画を連続で撮影できるのは、最大2 GBまでです。
  画面には、2 GBで記録できる最大記録可能時間までしか表示されません。

■ 再生

再生使用時間	約240分

- **使用時間と撮影枚数は、周囲環境や使用条件によって変わります。**
  例えば、以下の場合は、使用時間は少なくなり、撮影枚数は減少します。
  – スキー場などの低温下
  – フラッシュ発光やズームなどの動作を繰り返した場合
- 正しく充電したにもかかわらず、著しく使用できる時間が短くなったときは、寿命と考えられます。新しいバッテリーをお買い求めください。

カード(別売)を入れる・取り出す

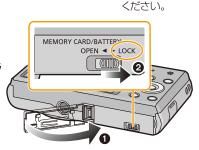
- 電源が切れていることを確認する。
- カードは当社製のものをお使いいただくことをお勧めします。

1 **開閉レバーをOPEN側にスライドさせて、カード/バッテリー扉を開く**

2 **向きに気をつけて、「カチッ」と音がするまで確実に奥まで入れる**
取り出すときは、「カチッ」と音がするまで押し、まっすぐ引き抜く

向きを確認

接続端子部
端子部には触れないでください。

3 ❶ **カード/バッテリー扉を閉じる**

❷ **開閉レバーをLOCK側にスライドさせる**

- カードの取り出しは、電源を切り、液晶モニターのLUMIX表示が完全に消えてから行ってください。
（本機が正常に動作しなくなったり、カードや撮影内容が壊れる場合があります）

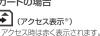
内蔵メモリー/カードについて

本機では以下のように動作します。

カードを挿入していない場合	内蔵メモリーで画像の記録･再生を行います。
カードを挿入している場合	カードで画像の記録･再生を行います。

内蔵メモリーの場合

カードの場合

※アクセス時は赤く表示されます。

内蔵メモリー

- 記録した画像はカードにコピーすることができます。(P90)
- **容量:約90 MB**
- カードよりアクセス時間が長い場合があります。

カード

本機ではSD規格に準拠した以下のカードが使用できます。(本書では、これらを**カード**と記載しています)

	備考
SDメモリーカード(8 MB〜2 GB)/miniSDカード※1/microSDカード※1	● **動画撮影の際は、SDスピードクラス※2が「Class6」以上のカードを使用してください。** ● SDHCメモリーカード、SDXCメモリーカードは、それぞれの対応機器でのみ使用できます。 ● SDXCメモリーカードをお使いの場合は、パソコンなどが対応しているかご確認ください。 http://panasonic.jp/support/sd_w/ ● 左記の容量以外のカードは使えません。
SDHCメモリーカード(4 GB〜32 GB)/microSDHCカード※1	
SDXCメモリーカード(48 GB、64 GB)	

※1　本機で使用する場合は、専用のアダプターを必ず装着してお使いください。

※2　SDスピードクラスとは、連続的な書き込みに関する速度規格です。カードのラベル面などでご確認ください。

(例)　CLASS6　6

- **最新情報は下記サポートサイトでご確認ください。**
  http://panasonic.jp/support/dsc/

- **アクセス中（画像の書き込み、読み出しや消去、フォーマット中など）は、電源を切ったり、バッテリーやカード、ACアダプター（付属）を取り外さないでください。**
  また、本機に振動、衝撃や静電気を与えないでください。
  カードやカードのデータが壊れたり、本機が正常に動作しなくなることがあります。振動、衝撃や静電気により動作が停止した場合は再度操作してください。
- 書き込み禁止スイッチを「LOCK」側にすると、データの書き込みや消去、フォーマットはできなくなります。戻すと可能になります。
- 内蔵メモリーやカードに記録されたデータは電磁波、静電気、本機やカードの故障などにより壊れたり消失することがあります。大切なデータはパソコンなどに保存することをお勧めします。
- パソコンやその他の機器でフォーマットした場合、もう一度本機でフォーマットしてください。(P40)

記録可能枚数・時間の目安

■ 記録可能枚数・時間の表示について

- 記録可能枚数と時間など、画面表示は▼ボタンを押して切り換えてください。(P41)
- 記録可能枚数・時間は目安です。(撮影条件、カードの種類によって変化します)
- 被写体により記録可能枚数・時間は変化します。

記録可能枚数

記録可能時間

■ 記録可能枚数(写真:枚)

- 残り枚数が100000枚以上の場合は、[+99999]と表示されます。

記録画素数	内蔵メモリー(約 90 MB)	2 GB	32 GB	64 GB
16M(4:3)	14	300	4910	9880
5M(4:3)	31	650	10620	21490
0.3M(4:3)	480	10050	162960	247160

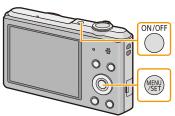
■ 記録可能時間(動画撮影時)(h:時間、m:分、s:秒)

画質設定	内蔵メモリー(約 90 MB)	2 GB	32 GB	64 GB
HD	―	10m10s	2h47m00s	5h39m00s
VGA	―	21m40s	5h54m00s	11h56m00s
QVGA	3m00s	1h2m00s	16h59m00s	34h21m00s

- 記録可能時間は複数の動画を記録したときの合計時間です。
- 動画を連続で撮影できるのは、最大2 GBまでです。
  画面には、2 GBで記録できる最大記録可能時間までしか表示されません。
- 画面には、連続して記録できる時間が表示されます。

時計を設定する

● お買い上げ時は、時計設定されていません。

1 電源ボタンを押す

2 [MENU/SET] ボタンを押す

MENU/SET

3 ◀/▶ ボタンで合わせたい項目(年・月・日・時・分・表示順・時刻表示形式)を選び、▲/▼ ボタンで設定する

● [/] ボタンを押すと、時計を設定せずに中止することができます。

表示順　時刻表示形式

4 [MENU/SET] ボタンを押して決定する

5 [MENU/SET] ボタンを押す

時計設定を変更する

撮影メニューまたはセットアップメニューの [時計設定] を選び、[MENU/SET] ボタンを押してください。(P35)

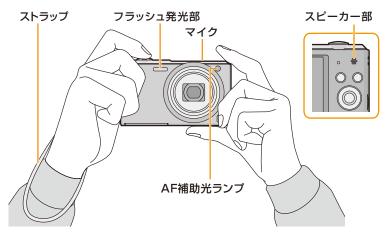
● 上記の手順**3**、**4** の操作で変更できます。
● **バッテリーなしでも約3か月間、時計用内蔵電池を使って時計設定を記憶できます。(内蔵電池を充電するには、満充電されたバッテリーを本機に 24 時間入れてください)**

● 時計設定を行っていないと、お店にプリントを依頼するときや[日付焼き込み]を行うときに、正しい日付をプリントすることができませんのでお気をつけください。
● 時計設定を行っていれば、カメラの画面上に日付が表示されていなくても、正しく日付をプリントできます。

本機の構え方について

ストラップを取り付けて正しく構える

両手で本機を軽く持ち、脇を締め、肩幅くらいに足を開いて構える

- **落下防止のため、必ず付属のストラップを取り付け、手首に通してご使用ください。**(P11)
- ストラップを取り付けたまま、本機を振り回したり、無理に引っ張ったりしないでください。ストラップのひもが切れるおそれがあります。
- シャッターボタンを押す瞬間に、カメラが動かないようにお気をつけください。
- フラッシュ発光部やAF補助光ランプ、マイク、スピーカー、レンズ部などに指がかからないようにしてください。

■ 縦位置検出機能について([縦位置自動回転])

本機を縦に構えて撮影した写真を、再生時に自動で縦向きに表示することができる機能です。([縦位置自動回転](P39)設定時)

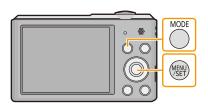
- 本機を縦に構えた状態で、上に向けたり下に向けたりして撮影すると、縦位置検出機能が正しく働かないことがあります。
- 動画再生時は、画像を縦向きに表示できません。

手ブレを防ぐために

手ブレ警告表示[((📷))]が表示されたときは、手ブレ補正(P71)、三脚、セルフタイマー(P47)などをお使いください。

- 特に以下の場合にはシャッタースピードが遅くなって撮影されますので、シャッターを切ったあと、画像が出るまで本機を固定してください。三脚の使用をお勧めします。
  – 赤目軽減スローシンクロ
  – シーンモードの[夜景&人物]/[夜景]/[星空]

撮影モードを選ぶ

1 [MODE] ボタンを押す

2 ▲/▼/◀/▶ ボタンで撮影モードを選ぶ

3 [MENU/SET] ボタンを押す

■ 撮影モード一覧

iA インテリジェントオートモード(P24)
カメラにおまかせで撮影します。
通常撮影モード(P27)
お好みの設定で撮影します。
クリエイティブコントロールモード(P49)
画像効果を確認しながら撮影します。
パノラマモード(P54)
パノラマの写真を撮影します。
SCN シーンモード(P56)
撮影シーンに合わせて撮影します。

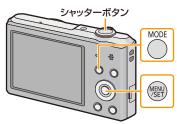
● 再生モードから撮影モードに切り換えたときは、前回設定した撮影モードになります。

カメラにおまかせで撮る(インテリジェントオートモード)

撮影モード： iA

被写体や撮影状況に合わせてカメラが最適な設定を行うので、カメラにおまかせで気軽に撮りたいときや初心者にお勧めです。

● 以下の機能が自動的に働きます。
– 自動シーン判別 / 逆光補正 / インテリジェント ISO / オートホワイトバランス / 顔認識 / 暗部補正 / 超解像 / iA ズーム / AF補助光 / デジタル赤目補正 / 手ブレ補正 / AF 連続動作

1 [MODE] ボタンを押す

2 ▲/▼/◀/▶ ボタンで [インテリジェントオート] を選び、[MENU/SET] ボタンを押す

3 シャッターボタンを半押し(軽く押す)してピントを合わせる

● ピントが合うと、フォーカス表示(緑)が点灯します。
● 顔認識機能により、顔に合わせてAFエリアが表示されます。その他の場合は、ピントの合ったところにAFエリアが表示されます。
● ズーム倍率により最至近距離(もっとも被写体に近づける距離)は変わります。画面の撮影可能範囲表示で確認してください。(P28)

4 シャッターボタンを全押し(さらに押し込む)して撮影する

自動シーン判別について

カメラが最適なシーンを判別すると、各シーンのアイコンが2秒間青色で表示後、通常の赤色に変わります。

写真撮影時

[iA] →		
i人物	i風景	iマクロ
i夜景＆人物 –[i⚡A]選択時のみ	i夜景	i夕焼け

- どのシーンにも当てはまらない場合は[iA]になり、標準的な設定を行います。
- [ ]、[ ]のときは、カメラが人の顔を自動的に検知し、認識した顔にピントや露出を合わせます。**(顔認識)**
- [ ]と判別された場合に、三脚などを使用し、ブレの量が少ないとカメラが判断したとき、シャッタースピードは最大8秒となります。撮影中はそのままカメラを動かさないようにお気をつけください。
- 以下のような条件によって、同じ被写体でも異なるシーンに判別される場合があります。
  – 被写体条件
  顔の明暗/被写体の大きさ・色/被写体までの距離/被写体の濃淡/被写体が動いているとき
  – 撮影条件
  夕暮れ/朝焼け/低照度/手ブレが発生したとき/ズーム倍率
- 意図したシーンで撮影したい場合は、目的に合った撮影モードで撮影することをお勧めします。
- 動画撮影時は、[iA]で撮影されます。自動シーン判別は働きません。

逆光補正について

カメラが自動で画像を明るくすることにより、逆光時に被写体が暗く写らないように補正します。インテリジェントオートモード時は、逆光補正が自動で働きます。逆光と判定された場合は画面に[ ]が表示されます。(逆光の状況によっては、正しく判定されない場合があります)

設定を変更する

設定できるメニューは以下のとおりです。

メニュー	項目
撮影	[記録画素数]※/[連写]※/[カラーモード]※
動画	[画質設定]
セットアップ	[時計設定]/[ワールドタイム]/[操作音]※/[手ブレ補正デモ] ● 上記以外の項目は表示されません。上記以外の項目は、他の撮影モードで設定することができます。

- メニューの設定方法については35 ページをお読みください。

※他の撮影モードと設定できる内容が異なります。

カラーモードについて

- [カラーモード]で[Happy]の色彩効果を設定できます。自動で色の明るさと鮮やかさが引き立った画像を撮影できます。

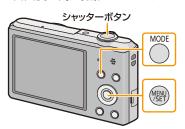
フラッシュについて(P44)

- [i⚡A]選択時は、被写体の種類や明るさに応じて、[i⚡A]、[i⚡A◎]、[i⚡S◎]、[i⚡S]になります。
- [i⚡A◎]、[i⚡S◎]のときは、[デジタル赤目補正]が働きます。
- [i⚡S◎]、[i⚡S]のときは、シャッタースピードが遅くなります。

お好みの設定で撮る(通常撮影モード)

撮影モード:

被写体の明るさに応じて、シャッタースピードと絞り値をカメラが自動的に設定します。撮影メニューで多彩な設定をすることで、自由度の高い撮影ができます。

1 [MODE] ボタンを押す

2 ▲/▼/◀/▶ ボタンで [通常撮影] を選び、[MENU/SET] ボタンを押す

3 ピントを合わせたい位置にAF エリアを合わせる

4 シャッターボタンを半押ししてピントを合わせ、全押しして撮影する

- 適正露出にならないときは、絞り値とシャッタースピードが赤くなります。(フラッシュ発光時を除く)

ピントの合わせ方

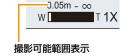
被写体をAFエリアに合わせて、シャッターボタンを半押しする

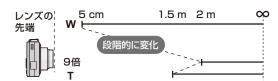
ピント	合っている	合っていない
フォーカス表示	点灯	点滅
AFエリア	白→緑	白→赤
音	ピピッ	ピピピピッ

● 暗いときやズーム倍率によっては、AFエリアは大きく表示される場合があります。

■ ピントの合う範囲について

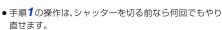
ズーム操作時に撮影可能範囲(ピントの合う範囲)が表示されます。

● シャッターボタン半押し時に、ピントが合っていないと撮影可能範囲表示が赤く表示されます。

撮影可能範囲はズーム位置によって段階的に変化する場合があります。

例)インテリジェントオートモード時のピントの合う範囲

■ ピントが合わないとき(被写体が、撮りたい構図の中央にないときなど)

1 被写体にAFエリアを合わせ、シャッターボタンを半押しし、ピントと露出を固定する

2 シャッターボタンを半押ししたまま、撮りたい構図に本機を動かし、撮影する

● 手順 *1* の操作は、シャッターを切る前なら何回でもやり直せます。

■ ピントが合いにくい被写体や撮影環境

● 動きの速い被写体、非常に明るい、または濃淡のない被写体
● ガラス越しや光るものの近くにある被写体を撮影するとき
● 暗いときや手ブレしているとき
● 被写体に近すぎるときや、遠くと近くを同時に撮るとき

動画を撮る

使えるモード：

本機はQuickTime Motion JPEGの記録方式で動画撮影ができます。

1 動画ボタンを押して撮影を開始する

- 各撮影モードに適した動画が撮影できます。
- 動画ボタンを押したあと、すぐに離してください。
- 動画の記録中は、記録動作表示（赤）が点滅します。
- [画質設定]の設定については、73 ページをお読みください。

2 もう一度動画ボタンを押して撮影を終了する

記録可能時間　記録動作表示

記録経過時間

- 内蔵メモリーに記録時、[画質設定]は[QVGA]に固定されます。
- 液晶モニターに表示される記録可能時間は、規則正しく減少しない場合があります。
- カードの種類によっては、動画記録後、カードアクセス表示がしばらく出る場合がありますが、異常ではありません。
- 本機で撮影された動画を他機で再生すると、画質や音質が悪くなったり、再生できない場合があります。
また、撮影情報が正しく表示されない場合があります。
- 動画撮影時の環境によっては、静電気や電磁波などにより一瞬画面が黒くなったり、ノイズが記録される場合があります。
- 画像横縦比の設定が写真と動画で同じ場合でも、動画撮影開始時に画角が変わる場合があります。
[動画記録枠表示](P38)を[ON]に設定すると、動画撮影時の画角が表示されます。
- **動画撮影中のズームについて**
  – 動画ボタンを押す前にEX光学ズームを使っていた場合は、それらの設定が解除されるため、撮影範囲が大きく変わります。
  – 動画撮影中にズーム操作などをすると、その動作音が記録される場合があります。
  – 動画撮影中のズームスピードは通常より遅くなります。
  – 動画撮影中にズーム操作を行うと、ピントが合うまでに時間がかかる場合があります。
- クリエイティブコントロールモードの [ジオラマ] では、動画撮影を短い時間で終了すると、一定の時間まで撮影を続けることがあります。撮影が終わるまで構えたままお待ちください。
- 一部のシーンモードでは、以下のような分類で撮影されます。下記以外では、それぞれのシーンに合った動画を撮影できます。

選択されているシーンモード	動画撮影時のシーンモード
[赤ちゃん1]/[赤ちゃん2]	人物モード
[夜景＆人物]、[夜景]、[星空]	ローライトモード
[スポーツ]、[ペット]、[フォトフレーム]	通常動画

見る

1 [▶] ボタンを押す

2 ◀/▶ ボタンで画像を選ぶ

- ◀/▶ ボタンを押したままにすると、画像を連続して送ることができます。
- 画像送りの早さは、再生の状況によって変わります。

■ 動画を見る

◀/▶ ボタンで動画アイコン（[MJPEG QVGA]など）が付いた画像を選び、▲ ボタンを押して再生する

動画アイコン 動画記録時間

- [スライドショー](P74)や[絞り込み再生](P76)で再生する画像を絞り込んでいる場合、選択画面が表示されます。
  ▲/▼ ボタンで[動画再生]を選び、[MENU/SET]ボタンを押してください。
- 再生を開始すると、再生経過時間が表示されます。
  例）8分30秒のとき：8m30s
- **動画再生中の操作**

[MENU/SET]	▲	再生／一時停止
	[MENU/SET]	停止
	◀	早戻し※／コマ戻し（一時停止中）
	▶	早送り※／コマ送り（一時停止中）

※ もう一度 ▶/◀ ボタンを押すと、早送り／早戻し速度が速くなります。
–音量はズームレバーで調整できます。

- カメラの電源が入っていないときに、[▶]ボタンを長めに押すと、電源を入れることができます。
  電源が入ると、自動的に再生画面が表示されます。
- 本機は一般社団法人 電子情報技術産業協会（JEITA）にて制定された統一規格DCF（Design rule for Camera File system）および Exif（Exchangeable Image File Format）に準拠しています。
  DCF規格に準拠していないファイルは再生できません。
- 他機で撮影された画像は本機で再生できない場合があります。
- 撮影モードから再生モードに切り換えると、約15秒後にレンズ鏡筒が収納されます。
- 本機で再生できる動画のファイル形式は QuickTime Motion JPEGです。
- 大容量のカードを使用したとき、早戻し再生が遅くなる場合があります。
- 本機で撮影した動画をパソコンで再生する場合はCD-ROM（付属）のソフトウェア「PHOTOfunSTUDIO」をご使用ください。
- 再生時は、スピーカーを塞がないようにお気をつけください。

複数の画像を一覧表示する（マルチ再生）

ズームレバーを [▦]（W）側に回す

1画面⇨12画面⇨30画面⇨カレンダー検索

- ズームレバーを[Q]（T）側に回すと、1つ前に戻ります。
- [[!]]と表示される画像は再生できません。

■ 1画面表示に戻すには

▲/▼/◀/▶ ボタンで画像を選び、[MENU/SET] ボタンを押す

再生画面を拡大する（再生ズーム）

ズームレバーを [Q]（T）側に回す

1倍⇨2倍⇨4倍⇨8倍⇨16倍

- 拡大したあと、ズームレバーを[▦]（W）側に回すと、倍率が小さくなります。
- 倍率を変えると、約2秒間ズーム位置表示が表示され、▲/▼/◀/▶ボタンで拡大部分の位置を移動させることができます。
- 拡大するほど、画質は粗くなります。

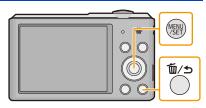
画像を消去する

画像は一度消去すると元に戻すことができません。

- 内蔵メモリーまたはカードの再生されている側の画像が消去されます。
- DCF規格外または[プロテクト]設定された画像は、消去できません。

1枚消去

消去する画像を選び、[🗑/↩]ボタンを押す

- 確認画面が表示されます。
[はい]を選ぶと消去されます。

複数消去(50枚まで)/全画像消去

1 [🗑/↩]ボタンを押す

2 ▲/▼ボタンで[複数消去]または[全画像消去]を選び、[MENU/SET]ボタンを押す

- [全画像消去]→確認画面が表示されます。[はい]を選ぶと消去されます。
- [全画像消去]選択時、[お気に入り以外全消去]を選択すると、お気に入り設定した画像以外の全画像を消去することができます。

3 ([複数消去]選択時)▲/▼/◀/▶ボタンで画像を選び、[MENU/SET]ボタンを押す(繰り返す)

- 設定した画像に[🗑]が表示されます。
もう一度[MENU/SET]ボタンを押すと設定が解除されます。

4 ([複数消去]選択時)◀ボタンで[実行]を選び、[MENU/SET]ボタンを押す

- 確認画面が表示されます。[はい]を選ぶと消去されます。

- 消去中は電源を切らないでください。
- 消去枚数により、時間がかかることがあります。

メニューを使って設定する

お好みの撮影や再生ができるように設定したり、より楽しく、使いやすくするためのメニューを用意しています。
特に「セットアップメニュー」は、本機の時計や電源に関する大切な設定です。ご使用の前に、設定を確認してください。

メニューの設定方法

例）撮影メニューで、[オートフォーカスモード]を[■]（1 点）から[顔]（顔認識）に設定する

1 **[MENU/SET] ボタンを押す**

2 **▲/▼/◀/▶ ボタンでメニューを選び、[MENU/SET] ボタンを押す**

メニュー	内容
撮影（P61 ～） **（撮影モードのみ）**	色合いや感度、画素数などをお好みで設定できます。
動画（P73） **（撮影モードのみ）**	画質設定など動画撮影時の設定ができます。
再生（P83 ～） **（再生モードのみ）**	画像の保護、切り抜き、プリントするときに便利な設定など、撮影した画像に対する設定ができます。
セットアップ（P37 ～）	時計の設定や操作音の切り換えなど、使いやすさの設定ができます。

3 **▲/▼ ボタンでメニュー項目を選び、[MENU/SET] ボタンを押す**

- いちばん下まで移動すると、次のページに切り換わります。
（ズームレバーを回しても切り換わります）

4 ▲/▼ボタンで設定内容を選び、[MENU/SET] ボタンを押す

- メニュー項目によっては、設定が表示されないものや、表示のされ方が異なるものがあります。

■ メニューを終了する

撮影 / 再生画面に戻るまで [/] ボタンを押す、またはシャッターボタンを半押しする

- 本機では仕様上、お使いのモードやメニュー設定により、設定できなくなったり、働かなくなる機能があります。

セットアップメニューを使う

セットアップメニューの設定方法は P35

- [時計設定]、[自動電源 OFF]、[オートレビュー]は大切な項目です。ご使用の前に設定を確認してください。
- インテリジェントオートモードでは[時計設定]、[ワールドタイム]、[操作音]※、[手ブレ補正デモ]のみ設定できます。
  ※ 他の撮影モードと設定できる内容が異なります。

項目	設定・お知らせ
時計設定	● 詳しくは、21 ページをお読みください。
ワールドタイム お住まいの地域と海外などの旅行先の時刻を設定します。旅行先の時刻を表示し、撮影画像に記録することができます。	**[旅行先]、[ホーム]のいずれかを選択後は、◀/▶ ボタンでエリアを選び、[MENU/SET] ボタンを押して決定してください。** ● お買い上げ時はまず [ホーム] を設定してください。[旅行先] の設定は、[ホーム]設定後に行えます。 **[旅行先]**：旅行先の地域 **現地時刻** **ホームとの時差** **[ホーム]**：お住まいの地域 **現在時刻** **GMT（グリニッジ標準時）との時差** ● サマータイム[ ](夏時間)を採用している場合は、▲ボタンを押してください。(時計が 1 時間進みます)もう一度▲ボタンを押すと元に戻ります。 ● 画面に表示されるエリアで旅行先が見つからない場合は、ホームエリアからの時差を参考に設定してください。
操作音 操作音やシャッター音を設定します。	**[操作音音量]**： [ ](小) [ ](大) [ ](OFF) **[操作音音色]**： [❶]、[❷]、[❸] **[シャッター音音量]**： [ ](小) [ ](大) [ ](OFF) **[シャッター音音色]**： [❶]、[❷]、[❸]
スピーカー音量 スピーカーの音量を7段階に調整します。	● テレビと接続したとき、テレビ側のスピーカーの音量は変わりません。また、このとき本機のスピーカーからは音声は出ません。

セットアップメニューの設定方法は P35

項目	設定・お知らせ
モニター調整 液晶モニターの明るさや色合い、または赤みや青みなどの色みを調整します。	**[明るさ]**：明るさを調整します。 **[コントラスト・彩度]**：明暗差や色の鮮やかさを調整します。 **[赤み]**：赤みを調整します。 **[青み]**：青みを調整します。 **1** ▲/▼ボタンで設定項目を選び、◀/▶ボタンで調整する **2** [MENU/SET]ボタンを押して決定する ● 被写体によっては実際と違って見える場合がありますが、記録される画像に影響はありません。
フォーカスアイコン フォーカスアイコンを変更します。	[●]、[ ]、[ ]、[ ]、[♫]、[ ]
動画記録枠表示 動画撮影時の画角を確認できます。	[ON]、[OFF] ● 動画記録枠表示は目安です。 ● 記録画素数の設定によっては、T 側にズームしていくと記録枠表示が消える場合があります。 ● インテリジェントオートモード時は[OFF]に固定されます。
自動電源 OFF 設定した時間の間に何も操作をしないと、自動的に電源を切ります。	[2 分]、[5分]、[10分]、[OFF] ● インテリジェントオートモード時は、[自動電源 OFF]は[5分]に固定されます。 ● 以下の場合、[自動電源 OFF]は働きません。 –パソコンまたはプリンター接続時 –動画撮影/動画再生時 –スライドショー時
オートレビュー 写真撮影後に撮影画像を表示する時間を設定します。	[1秒] [2秒] [ホールド]：ボタンを押すまで表示 [OFF] ● [連写]撮影時はオートレビューの設定にかかわらず、オートレビューされます。 ● インテリジェントオートモード時は[2秒]に固定されます。 ● 動画撮影では働きません。

セットアップメニューの設定方法は P35

項目	設定・お知らせ
設定リセット 設定をお買い上げ時の状態に戻します。	**撮影設定、セットアップ設定** ● 撮影時に撮影設定をリセットすると、レンズのリセット動作も同時に行います。レンズの動作音がしますが、異常ではありません。 ● セットアップ設定をリセットすると、以下の設定内容もリセットされます。 – シーンモードの[赤ちゃん1]/[赤ちゃん2]、[ペット]の誕生日設定 – [ワールドタイム]の設定内容 ● フォルダー番号、時計の設定は変わりません。
映像出力 テレビの種類に合わせて設定します。	**[ビデオ出力方式]:** [NTSC]: 日本やアメリカなど [PAL]: ヨーロッパなど **[TV画面タイプ]:** [16:9]: 画面が16:9のテレビと接続時 [4:3]: 画面が4:3のテレビと接続時 ● AVケーブル(別売)接続時に働きます。
縦位置自動回転 本機を縦に構えて撮影した画像を縦向きに表示させることができます。	[ ](ON): テレビで表示される映像と本機の液晶モニターの両方で、回転して縦向きに表示します。 [ ](外部出力のみ): テレビで表示する場合、回転して縦向きに表示します。 [OFF] ● 画像を再生する方法については、31 ページをお読みください。 ● パソコンで再生するとき、Exifに対応したOSまたはソフトウェアでないと、回転して表示されないことがあります。[Exifとは、一般社団法人 電子情報技術産業協会(JEITA)にて制定された、撮影情報などの付帯情報を追加することができる写真用のファイルフォーマットです] ● 他機で撮影された画像は回転できない場合があります。 ● マルチ再生時は、回転されません。

セットアップメニューの設定方法は P35

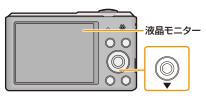
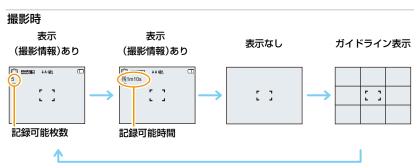
項目	設定・お知らせ
Ver. バージョン表示	● 本体のファームウェアバージョンを確認できます。
フォーマット 内蔵メモリーまたはカードをフォーマット（初期化）します。**フォーマットするとデータを元に戻すことができませんので、よく確認してからフォーマットしてください。**	● フォーマット中は電源を切らないでください。 ● カードが入っている場合はカードのみフォーマットされます。内蔵メモリーをフォーマットするには、カードを抜いてください。 ● 他の機器でフォーマットしたカードは、もう一度本機でフォーマットしてください。 ● カードより内蔵メモリーのほうがフォーマットに時間がかかる場合があります。 ● フォーマットできないときは、お買い上げの販売店へご連絡ください。
手ブレ補正デモ カメラが感知した手ブレ量を表示します。	● [MENU/SET]ボタンを押すごとに、手ブレ補正が ON とOFFに切り換わります。 ● [手ブレ補正デモ]は目安です。 手ブレ量 補正後の手ブレ量

液晶モニターの表示を切り換える

▼ ボタンを押して切り換える

● 動画再生中、パノラマ再生中、スライドショー中は、表示ありと表示なしの切り換えになります。

撮影時

再生時

■ ガイドライン表示について

撮影時、バランスなど構図の参考に使います。

● 以下の場合、ガイドラインは表示されません。
– パノラマモード
– シーンモードの [フォトフレーム]

ズームを使って撮る

使えるモード： iA 📷 🎨 SCN

風景などを広く（広角）撮ったり人や物を大きく（望遠）撮ることができます。

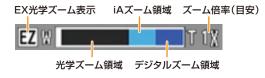
広く撮るには（広角）

ズームレバーをW側へ回す

大きく撮るには（望遠）

ズームレバーをT側へ回す

■ 画面表示

EX光学ズーム（EZ）、iAズームおよびデジタルズームを併用したときの表示例です。

- **ズーム時は、ズーム表示のバーと連動して撮影可能範囲の目安が表示されます。（例：0.05m—∞）**

- ズーム位置によって、レンズ鏡筒が伸び縮みします。ズーム中に、レンズ鏡筒の動きを妨げないようにお気をつけください。

光学ズーム

画質を劣化させずに拡大します。

最大倍率：10倍

EX光学ズーム（EZ）

EZ付きの記録画素数（P61）を選ぶと働きます。画像を劣化させずに光学ズームより拡大します。

最大倍率：22.5倍（光学ズームの倍率を含みます。また記録画素数により変わります。）

- EZとは「Ex. Optical Zoom」の略で、EX光学ズームを表します。
- 以下の場合は使えません。
  – クリエイティブコントロールモードの［トイフォト］
  – シーンモードの［高感度］、［フォトフレーム］
  – 撮影メニューの［連写］を［H］または［ ］に設定時
  – 動画撮影時

iAズーム

撮影メニューの[超解像](P67)を [iA ZOOM] に設定すると働きます。画質の劣化を抑えつつ、元のズーム倍率の最大2倍まで拡大できます。

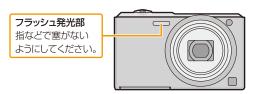
- インテリジェントオートモード時は自動で働きます。
- 以下の場合は使えません。
  – クリエイティブコントロールモードの[トイフォト]
  – シーンモードの[高感度]
  – 撮影メニューの[連写]を[H]または[]に設定時

デジタルズーム

撮影メニューの[デジタルズーム](P67)を [ON] に設定すると働きます。画質は拡大するたびに劣化しますが、元のズーム倍率の最大4倍まで拡大できます。

- iAズーム使用時、デジタルズームの倍率は最大2倍までになります。
- 三脚を使用し、セルフタイマー(P47)を使って撮影することをお勧めします。
- 以下の場合は使えません。
  – インテリジェントオートモード
  – クリエイティブコントロールモードの[トイフォト]、[ジオラマ]
  – シーンモードの[高感度]、[フォトフレーム]
  – 撮影メニューの[連写]を[H]または[]に設定時

フラッシュを使って撮る

使えるモード：iA 📷 SCN

フラッシュ設定を切り換える

撮影内容に合わせて、フラッシュの発光のしかたを設定します。

1 ▶ボタン(⚡)を押す

2 ▲/▼ボタンでモードを選び、[MENU/SET]ボタンを押す

モード	内容
[⚡A](オート) [i⚡A](i オート)※1	撮影状況に応じて、自動的にフラッシュが発光します。
[⚡A◎](赤目軽減オート)※2	撮影状況に応じて、自動的にフラッシュが発光します。人の瞳が赤く写る(赤目現象)のを抑えるため、フラッシュが予備発光し、そのあと撮影のために再び発光します。 ● **暗い場所で人物を撮影するときなどに適しています。**
[⚡](強制発光)	フラッシュを強制的に発光させます。 ● **逆光時や蛍光灯などの照明の下に被写体があるときなどに適しています。**
[⚡S◎] (赤目軽減スローシンクロ)※2	フラッシュ発光とともにシャッタースピードを遅くして背景の夜景なども明るく写します。同時に赤目現象を抑えます。 ● **夜景を背景に人物を撮影するときなどに適しています。**
[㊉](発光禁止)	どのような撮影状況でもフラッシュが発光しません。 ● **フラッシュ禁止の場所で撮影するときなどに適しています。**

※1 インテリジェントオートモード時のみ設定できます。被写体や撮影状況に応じて、アイコンが切り換わります。(P26)

※2 **フラッシュが2回発光します。2回目の発光終了まで動かないようにしてください。**
また、発光する間隔は被写体の明るさにより異なります。
撮影メニューの[デジタル赤目補正](P70)**を[ON]に設定すると、アイコンに[🖉]が表示されます。**

■ 撮影モード別フラッシュ設定

設定できるフラッシュ設定は、撮影モードによって異なります。

（○：設定可、×：設定不可、◎：シーンモード初期設定）

	⚡A	⚡A◎	⚡	⚡S◎	⊗
iA	○※	×	×	×	○
	○	○	○	×	○
	○	◎	○	×	○
	×	×	×	×	◎
	◎	×	○	×	○
	×	×	×	◎	○
	○	×	○	×	◎
	◎	○	○	×	○

※[i⚡A]と表示されます。

- 撮影モードを変更すると、フラッシュの設定が変わることがあります。変更が必要な場合には、再度フラッシュ設定をしてください。
- 設定したフラッシュ設定は電源を切っても記憶しています。シーンモードを変更すると、シーンモードのフラッシュ設定はモードを変更するたびに初期設定に戻ります。
- 動画撮影時はフラッシュは発光しません。

■ フラッシュ撮影可能範囲

	W端時	T端時
ISO感度[iISO]設定時	約 60 cm～約 4.1 m	約 1.5 m～約 2.1 m

■ フラッシュモード別のシャッタースピード

フラッシュモード	シャッタースピード
⚡A	1/60～1/1600秒
⚡A◎	1/60～1/1600秒
⚡	1/60～1/1600秒

フラッシュモード	シャッタースピード
⚡S◎	1または1/8～1/1600秒※1 1または1/4～1/1600秒※2
⊛	1または1/8～1/1600秒※1 1または1/4～1/1600秒※2

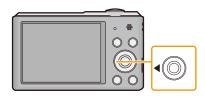
※1 [手ブレ補正]の設定によって変わります。

※2 [ISO感度]の[iISO]設定時

- ※1、2でシャッタースピードが最大 1 秒になるのは、以下の場合です。
  – [手ブレ補正]が[OFF]のとき
  – [手ブレ補正]設定時に、ブレの量が少ないとカメラが判断したとき
- インテリジェントオートモード時のシャッタースピードは判別シーンによって異なります。
- シーンモード時のシャッタースピードは上表と異なります。

- フラッシュに物を近づけると熱や光で変形、変色する場合があります。
- 被写体に近すぎたりフラッシュが十分に届かない被写体を撮影すると、適正露出にならず、白っぽく撮れる場合や暗くなる場合があります。
- フラッシュ充電中は、フラッシュアイコンが赤に点滅し、シャッターボタンを全押ししても、撮影できません。
- フラッシュが十分に届かない被写体を撮影すると、ホワイトバランスが合わない場合があります。
- 以下の場合はフラッシュの効果が十分に得られないことがあります。
  – [連写]の[⚡]設定時
  – シャッタースピードが速いとき
- 撮影を繰り返すと、フラッシュの充電に時間がかかる場合があります。アクセス表示が消えてから撮影してください。
- 赤目軽減の効果には個人差があり、被写体までの距離や被写体の人が予備発光を見ていないなどの条件によって、効果が現れにくい場合があります。

セルフタイマーを使って撮る

使えるモード：iA 📷 SCN

1 ◀ボタン( )を押す

2 ▲/▼ボタンで時間を選び、[MENU/SET]ボタンを押す

時間	内容
[10](10 秒)	10秒後に撮影します。
[2](2 秒)	2秒後に撮影します。 ● 三脚使用時などシャッターボタンを押したときのカメラブレを防ぐのに便利です。
[OFF]	—

3 シャッターボタンを半押ししてピントを合わせ、全押しして撮影する

● セルフタイマーランプが点滅し、10秒(または2秒)後に撮影動作が開始されます。

● 一度に全押しすると、撮影直前にピントを自動的に合わせます。このとき、暗い場所ではセルフタイマーランプが点滅したあと、ピント合わせのためにAF補助光として明るく点灯することがあります。
● セルフタイマー撮影時は、三脚の使用をお勧めします。
● 動画撮影時、セルフタイマーの設定はできません。

露出を補正して撮る

使えるモード：

被写体と背景の明るさに大きく差がある場合など、適正な露出が得られないときに補正します。

露出アンダー

露出オーバー

露出をプラス方向に補正してください。

露出をマイナス方向に補正してください。

1 ▲ボタン( )を押し、[露出補正]を表示させる

2 ◀/▶ボタンで露出を補正し、[MENU/SET]ボタンを押す

- 露出補正値は、画面に表示されます。
- 露出を補正しない場合は、“0 EV” を選んでください。

- EVとは「Exposure Value」の略で、露出量を表す単位です。絞り値またはシャッタースピードが変化するとEVが変化します。
- 設定した露出補正量は、電源を切っても記憶しています。
- 被写体の明るさによっては、露出補正できない範囲があります。
- シーンモードの[星空]では露出補正できません。

画像効果を変えて撮る(クリエイティブコントロールモード)

撮影モード：

画像に効果を加えて撮影することができます。画像に加える効果は作例写真から選ぶことができ、画面で確認しながら設定できます。

1 [MODE] ボタンを押す

2 ▲/▼/◀/▶ ボタンで [クリエイティブコントロール] を選び、[MENU/SET] ボタンを押す

3 ▲/▼ ボタンで作例写真から画像効果を選び、[MENU/SET] ボタンを押す

- 選んだ作例写真の画像効果が、プレビュー表示に反映されます。
- ▶ ボタンを押すと、選択されている画像効果の説明が表示されます。

- クリエイティブコントロールモードを変更したい場合は、[MENU/SET] ボタンを押して ▲/▼/◀/▶ ボタンで [クリエイティブコントロール] を選び、[MENU/SET] ボタンを押してください。
- 選んだ効果が反映されたプレビュー表示や撮影時の画面表示は、実際に撮影した画像と異なる場合があります。
- クリエイティブコントロールの設定は、電源を切っても記憶しています。
- ホワイトバランスは [AWB] に固定されます。
- クリエイティブコントロールモード時は、カメラが自動で調整するため、[ISO感度] の設定はできません。

クリエイティブコントロールモードの設定方法は P49

※画像は効果を説明するためのイメージです。

ポップ

色を強調したポップアート風の画像効果です。

レトロ

色あせた写真の雰囲気を醸し出した、柔らかい画像効果です。

ハイキー

全体的に明るく、ふんわりと柔らかな雰囲気に仕上げる画像効果です。

- パノラマモードでこの画像効果を選択した場合、明るさが不十分な場面では効果が現れにくいことがあります。

ローキー

全体的に暗く落ち着いた雰囲気で、明るい部分を引き立てる画像効果です。

クリエイティブコントロールモードの設定方法は P49

セピア

セピア色の画像効果です。

ダイナミックモノクローム

コントラストを高めにし、力強いモノクロ写真に仕上げる画像効果です。

インプレッシブアート

強いコントラストで、現実にはない劇的な雰囲気を描き出す画像効果です。

- パノラマモードでこの画像効果を選択した場合、写真のつなぎ目が目立つことがあります。

ハイダイナミック

暗いところから明るいところまで、全体的にバランスのよい明るさで描き出す画像効果です。

クリエイティブコントロールモードの設定方法は P49

クロスプロセス

意外な発色で、独特の雰囲気に仕上げる画像効果です。

調整できる項目

色合い	緑っぽい色 / 青っぽい色 / 黄色っぽい色 / 赤っぽい色

- ◀/▶ ボタンで発色させる色合いを選び、[MENU/SET] ボタンを押してください。

トイフォト

周辺光量を落とした、トイカメラで撮影したような画像効果です。

調整できる項目

色合い	オレンジっぽい色 ⟺ 青っぽい色

- ◀/▶ ボタンで色合いを選び、[MENU/SET] ボタンを押してください。

クリエイティブコントロールモードの設定方法は　☞ P49

ジオラマ

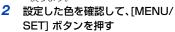
周辺をぼかし、ジオラマ風に描き出す画像効果です。

- 撮影画面が通常より遅れて表示され、コマ落としのように表示されます。
- 動画に音声は録音されません。
- 動画は約1/10の時間で記録されます。（10 分間撮影した場合、動画記録時間は約 1 分になります）
  表示される記録可能時間は約10倍になります。撮影モードを切り換えたときは、記録可能時間を確認してください。
- 大きい記録画素数に設定して写真撮影した場合、撮影後に画面が一定時間暗くなりますが、信号処理のためで異常ではありません。

ワンポイントカラー

モノクロ写真に特定の色だけを残し、印象的に強調する画像効果です。

■ 残したい色を設定する

1　**残したい色を画面中央の枠内に入れて、[MENU/SET] ボタンを押す**
- ▼([DISP.])ボタンを押すと手順 ***1*** の操作に戻ります。

2　**設定した色を確認して、[MENU/SET] ボタンを押す**
- 設定した色は電源を切っても記憶しています。その場合は手順 ***2*** から始まります。

- 被写体によっては、設定した色が残らない場合があります。

パノラマ写真を撮る(パノラマモード)

撮影モード：

カメラを水平または垂直に動かしている間に連続撮影をして、1 枚のパノラマ写真に合成します。

1 [MODE] ボタンを押す

2 ▲/▼/◀/▶ ボタンで [パノラマ] を選び、[MENU/SET] ボタンを押す

3 ▲/▼ ボタンで撮影する方向を選び、[MENU/SET] ボタンを押す

4 ▲/▼ ボタンで作例写真から画像効果を選び、[MENU/SET] ボタンを押す

- クリエイティブコントロールモードと同じ操作で、同じ画像効果を加えることができます。([トイフォト] と [ジオラマ] を除く)
- それぞれの効果について、詳しくは 50 ～ 53 ページをお読みください。
- 画像効果を加えない場合は [OFF] を選択してください。

5 撮影方向を確認し、[MENU/SET] ボタンを押す

- 水平/垂直ガイドが表示されます。▶ ボタンを押すと、手順 3 に戻ります。

6 シャッターボタンを半押ししてピントを合わせる

7 シャッターボタンを全押しし、本機を手順3で選択した方向へ小さな円を描くように動かして撮影する

左から右へ撮影する場合

1秒
2秒
3秒
4秒

約4秒で半周するくらいの速さで動かす

撮影の方向と進み具合(目安)

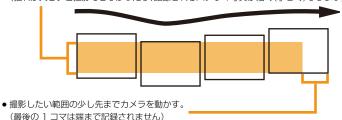
- 一定の速度で本機を動かしてください。速すぎても遅すぎても、うまく撮影できない場合があります。

8 もう一度シャッターボタンを押して撮影を終了する

- 撮影中に途中でカメラの動きを止めても撮影を終了できます。

■ 撮影のテクニック

● 揺らさないように気をつけながら、撮影方向へカメラを動かす。
（揺れが大きいと撮影できなかったり、記録されるパノラマ写真が細く(小さく)なります）

● 撮影したい範囲の少し先までカメラを動かす。
（最後の 1 コマは端まで記録されません）

● ズーム位置はW端に固定されます。
● ピント･ホワイトバランス･露出は、1コマ目の写真に最適な値で固定されます。このため、撮影の途中でピントや明るさが極端に変わる場合、パノラマ写真全体では適切なピントや明るさで撮影されない場合があります。
● 画像効果を加えた場合、ホワイトバランスは [AWB] に固定されます。
● 複数の写真から 1 枚のパノラマ写真に合成するため、被写体がゆがんだりつなぎ目が目立つ場合があります。
● パノラマ写真の横縦の記録画素数は、撮影方向や合成した写真の枚数により異なります。最大記録画素数は以下のとおりです。

撮影方向	横	縦
水平方向	3200 画素	720 画素
垂直方向	960 画素	3200 画素

● 次の被写体や撮影状況などでは、パノラマ写真が作成できなかったり、適切に合成されない場合があります。
– 単調な色や模様が続く被写体(空や砂浜など)
– 動いている被写体(人やペット、自動車、波、風に揺れる花など)
– 短時間で色や模様が変化する被写体(ディスプレイに映った画像など)
– 暗い場所
– 蛍光灯やろうそくなど、光源がちらついている場所

■ 再生について

[MENU/SET]	▲	パノラマ再生開始※ 1/ 一時停止※ 2
	[MENU/SET]	停止

※ 1 [スライドショー](P74)や[絞り込み再生](P76)で再生する画像を絞り込んでいる場合、選択画面が表示されます。▲/▼ボタンで[パノラマ再生]を選び、[MENU/SET]ボタンを押してください。
※ 2 一時停止中に ▶/◀ボタンを押すと、コマ送り/コマ戻しができます。

撮影シーンに合わせて撮る(シーンモード)

撮影モード：SCN

被写体や撮影状況に合わせてシーンモードを選択すると、カメラが最適な露出や色調を設定し、シーンに合った撮影ができます。

1 [MODE] ボタンを押す

2 ▲/▼/◀/▶ ボタンで [シーンモード] を選び、[MENU/SET] ボタンを押す

3 ▲/▼/◀/▶ ボタンでシーンモードを選び、[MENU/SET] ボタンを押す

- シーンモードを変更したい場合は、[MENU/SET] ボタンを押して▲/▼/◀/▶ボタンで [シーンモード] を選び、[MENU/SET] ボタンを押してください。
- シーンモード時は、カメラが自動で調整するため、[ISO感度]、[暗部補正]、[超解像]、[カラーモード] の設定はできません。

人物

昼間の屋外で、人物を引き立て、肌色を健康的に撮影できます。

■ 撮影のテクニック

- ズームの位置はできるだけ T 側(望遠)にし、被写体までの距離を近くにするとより効果が出ます。

美肌

昼間の屋外で、[人物]より肌の表面を特に滑らかに撮影できます。
(胸から上を撮りたいときに効果的です)

■ 撮影のテクニック

- ズームの位置はできるだけ T 側(望遠)にし、被写体までの距離を近くにするとより効果が出ます。

- 背景などに肌色に近い色をした箇所があると、その部分も同時に滑らかになります。
- 明るさが不十分なときは、効果がわかりにくい場合があります。

風景

広がりのある風景を撮影できます。

スポーツ

スポーツシーンなど、動きの速い場面を撮りたいときにお使いください。

- シャッタースピードは最大１秒になります。
- ５ m以上離れた被写体の撮影に適しています。

夜景&人物

人物とともに背景も見た目に近い明るさで撮影できます。

■ 撮影のテクニック

- **フラッシュをお使いください。（[ ] に設定できます）**
- 被写体の人に、撮影中はなるべく動かないように伝えてください。

- 三脚を使用し、セルフタイマーを使って撮影することをお勧めします。
- シャッタースピードは最大８秒になります。
- 撮影後に、シャッターが閉じたまま（最大約８秒）になることがありますが、信号処理のためで異常ではありません。
- 暗い場面で撮影すると、ノイズが目立つことがあります。

夜景

夜景を鮮やかに撮影できます。

- 三脚を使用し、セルフタイマーを使って撮影することをお勧めします。
- シャッタースピードは最大８秒になります。
- 撮影後に、シャッターが閉じたまま（最大約８秒）になることがありますが、信号処理のためで異常ではありません。
- 暗い場面で撮影すると、ノイズが目立つことがあります。

料理

レストランなどで、周囲の光に影響されずに料理を自然な色調で撮影できます。

[1]赤ちゃん1/ [2]赤ちゃん2

赤ちゃんの肌を健康的な色で撮影し、フラッシュ使用時にはフラッシュの光が通常より弱めに発光します。
[赤ちゃん1]と[赤ちゃん2]のそれぞれに、異なる誕生日を設定できます。これらは、再生時に表示させることができます。

■ 誕生日を設定する

1 **▲/▼ボタンで[月齢/年齢]を選び、[MENU/SET]ボタンを押す**
2 **▲/▼ボタンで[設定]を選び、[MENU/SET]ボタンを押す**
3 **誕生日を入力する**

誕生日: ◀/▶ボタン:項目(年·月·日)選択
▲/▼ボタン:設定
[MENU/SET]ボタン:決定

- 誕生日を設定すると、[月齢/年齢]は自動で[ON]になります。
- 誕生日が登録されていない場合に[ON]にすると、自動的に設定画面が表示されます。

4 **▼ボタンで[終了]を選び、[MENU/SET]ボタンを押して終了する**

■ 月齢/年齢の表示を解除する

手順2で[OFF]に設定する

- CD-ROM(付属)のソフトウェア「PHOTOfunSTUDIO」を使って月齢/年齢をプリントすることができます。
- 誕生日を設定していても[月齢/年齢]を[OFF]にしていると月齢/年齢は表示されません。
- シャッタースピードは最大1秒になります。

ペット

犬や猫などのペットを撮りたいときにお使いください。ペットの誕生日を設定できます。
[月齢/年齢]については、上記の[赤ちゃん1]/[赤ちゃん2]をお読みください。

夕焼け

夕焼けの風景を撮りたいときにお使いください。赤色を鮮やかに撮影できます。

高感度

薄暗い室内で被写体のブレを抑えて撮影できます。

■ 記録画素数設定

記録画素数は3M(4:3)、2.5M(3:2)、2M(16:9)、2.5M(1:1)から選択します。

星空

星空や暗い被写体を鮮明に撮影できます。

■ シャッタースピード設定

シャッタースピードを15秒、30秒、60秒から選択します。

- シャッターボタンを全押しするとカウントダウン画面が表示されます。このとき、本機を動かさないでください。カウントダウンが終了すると、信号処理のために、選択したシャッタースピードと同じ時間「しばらくお待ちください」と表示されます。

■ 撮影のテクニック

- 15秒、30秒、60秒間シャッターが開きます。必ず三脚を使用してください。また、セルフタイマーを使って撮影することをお勧めします。

ガラス越し

遠くの被写体に優先してピントを合わせます。乗り物や建物の透明なガラス越しに景色などを撮影するときに最適です。

- ガラスが汚れていたり、ほこりが付いていたりすると、ガラスにピントが合う場合があります。
- ガラスの色によっては、自然な色合いにならない場合があります。そのときはホワイトバランスの設定を変更してください。(P63)

フォトフレーム

画像にフレームを付けて撮影します。

■ フレームの設定

6 種類のフレームから選択します。

- 記録画素数は5M(4:3)に固定されます。
- 画面に表示されるフレームの色と、実際に撮影される画像のフレームの色は異なりますが、故障ではありません。

撮影メニューを使う

撮影メニューの設定方法は P35

記録画素数

使えるモード： iA ◘ ◎ SCN

記録画素数を設定します。
画素数が大きいほど、大きな用紙にプリントしても鮮明な画像になります。

設定	記録画素数
[4:3 16M]	4608×3456
[4:3 10M EZ] ※	3648×2736
[4:3 5M EZ]	2560×1920
[4:3 3M EZ] ※	2048×1536
[4:3 0.3M EZ]	640×480
[3:2 14M]	4608×3072
[16:9 12M]	4608×2592
[1:1 12M]	3456×3456

※ インテリジェントオートモード時は設定できません。

4:3: 4:3テレビの横縦比

3:2:一般のフィルムカメラの横縦比

16:9:ハイビジョンテレビなどの横縦比

1:1: 正方形横縦比

- 特定のモードではEX光学ズームが使えませんので、記録画素数の[EZ]は表示されません。EX光学ズームが使えないモードについては、42 ページをお読みください。
- 被写体や撮影状況によってはモザイク状になることがあります。

撮影メニューの設定方法は ☞P35

ISO ISO感度

使えるモード： iA 📷 SCN

光に対する感度（ISO感度）を設定できます。数値を高く設定すると、暗い場所でも明るく撮ることができます。

設定	設定内容
[iISO] (i.ISO)	被写体の動きと明るさに応じて、ISO感度を調整します。 ● 最大 [1600] ● シャッタースピードはシャッターボタン半押し時に固定されず、全押しするまで常に被写体の動きに合わせて変化します。
[100]	それぞれのISO感度に固定します。
[200]	
[400]	
[800]	
[1600]	

	[100]	[1600]
撮影場所（お勧め）	明るいとき（屋外）	暗いとき
シャッタースピード	遅くなる	速くなる
ノイズ	少ない	多い
被写体ブレ	多い	少ない

- [iISO] 設定時のフラッシュ撮影可能範囲については、46 ページをお読みください。
- 以下の場合、ISO 感度は自動で設定されます。
  – 動画撮影時
  – [連写] の [H] または [⚡] 設定時

撮影メニューの設定方法は ☞ P35

WB ホワイトバランス

使えるモード： iA 📷 SCN

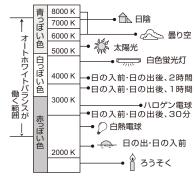
太陽光や白熱灯下など、白色が赤みがかったり青みがかったりする場面で、光源に合わせて見た目に近い白色に調整します。

設定	設定内容
[AWB]（オートホワイトバランス）	自動調整
[☼]（晴天）	晴天の屋外での撮影時
[☁]（曇り）	曇りの屋外での撮影時
[⌂]（日陰）	屋外の晴天下の日陰での撮影時
[白熱灯アイコン]（白熱灯）	白熱灯下での撮影時
[セットモードアイコン]（セットモード）	[SET]で設定した値を使用
[SET]（セットモード設定）	手動で設定

- 蛍光灯やLEDなどの照明下では、その種類によって最適なホワイトバランスは異なりますので、[AWB]または[SET]をご使用ください。
- 電源を切っても設定したホワイトバランスは記憶されます。
  （シーンモードを変更すると、ホワイトバランスは[AWB]に戻ります）
- 以下の場合は、ホワイトバランスは[AWB]に固定されます。
  – シーンモードの[風景]/[夜景&人物]/[夜景]/[料理]/[夕焼け]/[星空]

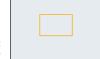
撮影メニューの設定方法は　P35

■ オートホワイトバランスについて

撮影時の状況によっては、画像が赤っぽくなったり、青っぽくなったりします。また、光源が複数の場合や白に近い色がない場合、オートホワイトバランスが正常に働かないことがあります。この場合は、ホワイトバランスを[AWB]以外に設定して調整してください。

手動でホワイトバランスを設定する

ホワイトバランスの設定値を設定します。撮影時の状況に合わせてお使いください。

1 [SET] を選び、[MENU/SET] ボタンを押す

2 白い紙など白いものだけを枠内に映し、[MENU/SET] ボタンを押す

- 被写体が明るすぎたり、暗すぎたりすると、ホワイトバランスが設定できない場合があります。そのときは適正な明るさに調整して、再度設定してください。
- 設定後はメニューを終了してください。

撮影メニューの設定方法は ☞ P35

オートフォーカスモード

使えるモード: iA 📷 🎨 🖼 SCN

被写体の位置や数に応じて、ピントの合わせ方を選択できます。

設定	設定内容
[顔認識アイコン]（顔認識）	人の顔を自動的に検知します。（最大15個） 認識された顔がどの位置にあっても、顔にピントや露出を合わせることができます。
[23点アイコン]（23点）※	AF エリアごとに最大23点までピントを合わせることができます。 被写体が中央にない場合に有効です。（AF エリア枠は画像横縦比の設定と同じになります）
[■]（1点）	中央のAFエリア内にピントを合わせます。

※動画撮影中は[■]になります。

- 以下の場合、[■]に固定されます。
  – クリエイティブコントロールモードの[ジオラマ]
  – シーンモードの[星空]
- 以下の場合、[顔認識アイコン]に設定できません。
  – パノラマモード
  – シーンモードの[夜景]、[料理]

撮影メニューの設定方法は P35

■ [顔認識アイコン]（顔認識）について

カメラが顔を認識すると以下の色のAFエリアが表示されます。

黄色：シャッターボタンを半押しし、ピントが合うと緑色に変わります。

白色：複数の顔を認識すると表示されます。黄色のAFエリア内の顔と同じ距離にある顔にはピントが合います。

- 以下の場合など、撮影状況によっては、顔認識機能が働かず、顔が検知できないことがあります。その際、オートフォーカスモードは[▦]（動画撮影時は[■]）に切り換わります。
  - 顔が正面を向いていない／傾いている／極端に明るいまたは暗い／サングラスなどで隠れている／小さく写っている
  - 顔の陰影が少ない
  - 被写体が人物以外である
  - デジタルズーム使用時
  - 動きが速い
  - 手ブレしている
- カメラが誤って人物以外を顔と認識した場合は、[顔認識アイコン]以外の設定に変更してください。

撮影メニューの設定方法は P35

暗部補正

使えるモード：

背景と被写体の明暗差が大きい場合など、撮影状況に合わせて、コントラストや露出を自動的に補正します。

設定：[ON]、[OFF]

- [暗部補正]有効時は、画面の[ ]が黄色になります。
- [ISO感度]が[100]のときでも、[暗部補正]有効時に撮影すると、[ISO感度]は[100]より大きくなることがあります。
- 撮影条件によっては、補正効果が得られない場合があります。

I.R超解像

使えるモード：

超解像技術を利用して、より輪郭がはっきりした、解像感がある写真を撮影することができます。

設定	設定内容
[ON]	[超解像]が働きます。
[iA ZOOM]（iA ズーム）	[超解像]が働き、画質の劣化を抑えつつズーム倍率を 2倍上げることができます。
[OFF]	―

- iAズームについては43 ページをお読みください。

デジタルズーム

使えるモード：

光学ズーム、EX光学ズーム、またはiAズームよりも、さらに拡大することができます。

設定：[ON]、[OFF]

- 詳しくは、43 ページをお読みください。

撮影メニューの設定方法は　P35

連写

使えるモード： iA　SCN

シャッターボタンを押している間、連続して撮影します。

設定	設定内容
[連写]（連写オン）	連写速度：　約 1.4 コマ/秒 ● 内蔵メモリーまたはカードの容量がいっぱいになるまで撮影できます。 ● **途中から連写速度が遅くなります。**遅くなるタイミングは、カードの種類、記録画素数によって変化します。 ● ピントは 1 コマ目で固定されます。 ● 1 コマごとに露出、ホワイトバランスを調整します。 ● 暗いところやISO感度が高い場合など、撮影環境によっては、連写速度（コマ/秒）が遅くなることがあります。
[連写H]（高速連写）	連写速度：　約 10コマ/秒 ● 通常撮影モード時のみ設定できます。 ● 記録画素数は3M（4:3）、2.5M（3:2）、2M（16:9）、2.5M（1:1）に固定されます。 ● 連写速度は、撮影条件によって変化します。 ● 連写コマ数は、撮影条件やカードの種類またはカードの状態などによって制限されます。 ● 書き込み速度の速いカードを使用したり、カードをフォーマットしたりすると、連写コマ数が増加する場合があります。 ● ピント・ズーム・露出・ホワイトバランス・シャッタースピード・ISO感度は、1 コマ目の設定に固定されます。 ● [ISO感度]は自動的に調整されます。ただし、シャッタースピードを高速にするため、ISO 感度は高めになります。
[フラッシュ連写]（フラッシュ連写）	連写コマ数：　最大 5 コマ ● フラッシュを発光しながら連写します。 ● 通常撮影モード時のみ設定できます。 ● 記録画素数は3M（4:3）、2.5M（3:2）、2M（16:9）、2.5M（1:1）に固定されます。 ● ピント、ズーム、露出、シャッタースピード、ISO感度、フラッシュ発光量は、1 コマ目の設定に固定されます。 ● **フラッシュは [⚡] になります。**
[OFF]（連写オフ）	—

撮影メニューの設定方法は　P35

- 撮影を繰り返すと、使用条件によっては、次の撮影まで時間がかかる場合があります。
- **連写した写真の保存には時間がかかる場合があります。保存中に引き続き連写した場合は、最大記録枚数が減少します。連写時は、高速タイプのカードのご利用をお勧めします。**
- 連写設定は、電源を切っても記憶しています。
- 内蔵メモリーで連写を行った場合は、書き込みに時間がかかります。
- 以下の場合、連写はできません。
  – クリエイティブコントロールモードの[トイフォト]、[ジオラマ]
  – シーンモードの[星空]、[フォトフレーム]
- セルフタイマーを使用時の連写コマ数は3コマ（[ ]設定時は5コマ）に固定されます。
- **フラッシュは[ ]になります。（[ ]を除く）**

カラーモード

使えるモード：

画像をくっきりさせたり、鮮やかにする、またはセピア色にするなど、色の効果を設定します。

設定	設定内容
[標準]	標準的な設定
[Happy]※1	明るさと鮮やかさが強調された画像
[ヴィヴィッド]※2	くっきりとした画像
[白黒]	白黒画像
[セピア]	セピア色の画像

※1 インテリジェントオートモード時のみ設定できます。
※2 通常撮影モード時のみ設定できます。

撮影メニューの設定方法は P35

AF補助光

使えるモード：

暗い場所での撮影時、ピントを合わせやすくするためにシャッターボタン半押しでAF補助光ランプが点灯します。（撮影に応じて大きなAFエリアが表示されます）

設定：[ON]、[OFF]

- 補助光の有効距離は約 1.5 m までです。
- 暗闇で動物を撮るときなど、暗い場所でAF補助光ランプを光らせたくない場合は、[OFF]に設定してください。このとき、ピントは合いにくくなります。
- シーンモードの[風景]、[夜景]、[夕焼け]、[ガラス越し]では、AF補助光は[OFF]に固定されます。

デジタル赤目補正

使えるモード：

赤目軽減（[ ]、[ ]）選択時にフラッシュが発光すると、デジタル赤目補正が働き、赤目を自動的に検出して画像データを修正します。

設定：[ON]、[OFF]

- [オートフォーカスモード] が[ ]で顔認識しているときのみ働きます。
- 赤目の状態によっては補正できない場合があります。

撮影メニューの設定方法は ☞ P35

手ブレ補正

使えるモード：

撮影時の手ブレを感知して、カメラが自動的に補正し、ブレの少ない画像を撮ることができます。

設定：[ON]、[OFF]

- 動画撮影時は、手ブレ補正は [ON] に固定されます。
- シーンモードの [星空] 時、手ブレ補正は[OFF]に固定されます。
- 以下の場合、手ブレ補正が効きにくくなることがあります。シャッターボタンを押し込む際は、手ブレにお気をつけください。
  – 手ブレが大きいとき、ズーム倍率が高いとき
  – デジタルズーム領域
  – 動きのある被写体を追いながら撮影するとき
  – 室内や薄暗い場所での撮影で、シャッタースピードが遅くなるとき

撮影メニューの設定方法は P35

日付焼き込み

使えるモード： iA 📷 🎨 🏞 SCN

撮影日時入りの写真を撮影できます。

設定	設定内容
[日付]	年月日を焼き込みます。
[日時]	年月日時分を焼き込みます。
[OFF]	—

- **[日付焼き込み]を設定して撮影した写真の日付情報は、消すことができません。**
- **日付焼き込みされた写真をプリントする場合、お店やプリンターで日付プリントを指定すると、日付が重なってプリントされます。**
- 時計設定を行っていないと、日付情報を焼き込むことができません。
- 以下の場合、日付焼き込みは [OFF] に固定されます。
  – 動画撮影時
  – [連写]撮影時
- [日付焼き込み]を設定して撮影した写真は [リサイズ(縮小)]、[トリミング(切抜き)] の設定はできません。
- [日付焼き込み]を[OFF]にして撮影しても、日付プリント(P88、98)を設定することができます。

時計設定

- 詳しくは、21 ページをお読みください。

動画撮影メニューを使う

動画撮影メニューの設定方法は P35

画質設定

使えるモード：

記録する動画の画質を設定します。

設定	画質	コマ数	画像横縦比
[HD]	1280×720画素	24コマ/秒	16:9
[VGA]	640×480画素	30コマ/秒	4:3
[QVGA]	320×240画素		

AF連続動作

使えるモード：

一度ピントを合わせた被写体にピントを合わせ続けます。

設定：[ON]、[OFF]

- 動画撮影開始時のピント位置で固定したい場合は、[OFF]に設定してください。
- シーンモードの[星空]では[OFF]に固定されます。

いろいろな再生方法

撮影した画像をいろいろな方法で再生することができます。

1 **[▶]ボタンを押す**

2 **[MODE]ボタンを押す**

3 **▲/▼/◀/▶ボタンで項目を選び、[MENU/SET]ボタンを押す**

● 以下の項目を選択できます。

[▶](全画像)(P31)	[ ](絞り込み再生)(P76)
[ ](スライドショー)(P74)	[ ](カレンダー検索)(P78)

スライドショー

撮影した画像を音楽に合わせて一定間隔で順番に再生することができます。またカテゴリーで分類した画像や、お気に入りに設定した画像のみなどをスライドショーで再生することもできます。テレビに接続して画像を見るときにお勧めの再生方法です。

▲/▼ボタンで[開始]を選び、[MENU/SET]ボタンを押す

■ スライドショー中の操作

再生中に表示されるカーソルは、▲/◀/▶ボタンと[MENU/SET]ボタンに対応しています。

[MENU/SET]	操作	
	▲	再生 / 一時停止
	[MENU/SET]	停止
	◀	前の画像へ
	▶	次の画像へ

W T	[W]	音量下げる
	[T]	音量上げる

■ 画像を絞り込んでスライドショー再生する

スライドショーのメニュー画面で[絞り込み]を選ぶと、画像を絞り込んでスライドショー再生することができます。

- [全画像]を選ぶと、全画像をスライドショー再生することができます。
  また、[絞り込み再生]と同じ設定で画像を絞り込むこともできます。
  設定については、76 ～ 77 ページをお読みください。
- 絞り込みの設定は、スライドショー再生を終了しても記憶されます。
  絞り込みの解除については、76 ページをお読みください。

■ スライドショーの設定を変更する

スライドショーのメニュー画面で[設定]を選ぶと、スライドショー再生時の効果や再生間隔などの設定を変更することができます。

設定	設定内容
[効果]	画像が切り換わる際の画面効果、音楽効果を選ぶことができます。 [ナチュラル]、[スロー]、[スウィング]、[アーバン]、[OFF] ● [アーバン]を選んだときは、画面効果として画像が白黒になることがあります。 ● 縦向きに表示された画像を再生するときは、一部の[効果]は動作しません。 ● [絞り込み]を[動画のみ]に設定時、[効果]は[OFF]に固定されます。
[再生間隔]	1 秒、2 秒、3 秒、5 秒 ● 以下をスライドショー時、[再生間隔]の設定は無効になります。 – 動画 – パノラマ写真
[リピート]	ON、OFF
[音設定]	[OFF]:　音を出しません。 [AUTO]:　写真再生時は音楽を、動画再生時は音声を再生します。 [音楽]:　音楽を再生します。 [音声]:　音声（動画のみ）を再生します。

絞り込み再生

カテゴリーごとや、お気に入りに設定した画像に分類して再生します。

設定	設定内容
[写真のみ]	写真のみを再生します。
[動画のみ]	動画のみを再生します。
[カテゴリー選択]	シーンモードなどのカテゴリー（人物·風景·夜景など）を検索し、各カテゴリーごとに画像を分類します。各カテゴリーごとに再生することができます。
[日付選択]	撮影した日付ごとに画像を再生することができます。
[お気に入り]	[お気に入り]設定(P86)した画像を再生することができます。

■ 絞り込みを解除する

1 一枚再生の状態で ▲ ボタンを押す

2 ▲/▼ ボタンで [絞り込み解除] を選び、[MENU/SET] ボタンを押す

● 電源を切る、または撮影モードに切り換えても、絞り込みが解除されます。

カテゴリーごとに分類して再生する

1 ▲/▼ ボタンで [カテゴリー選択] を選び、[MENU/SET] ボタンを押す

2 ▲/▼/◀/▶ ボタンでカテゴリーを選び、[MENU/SET] ボタンを押す

● 画像が見つかったカテゴリーのみ再生できます。

	シーンモードなどの撮影情報
(人物アイコン)	人物、i人物、美肌、夜景&人物、i夜景&人物、赤ちゃん
(風景アイコン)	パノラマモード、風景、i風景、夕焼け、i夕焼け、ガラス越し
(夜景アイコン)	夜景&人物、i夜景&人物、夜景、i夜景、星空
(スポーツアイコン)	スポーツ
(赤ちゃんアイコン)	赤ちゃん
(ペットアイコン)	ペット
(料理アイコン)	料理

撮影日ごとに分類して再生する

1 ▲/▼ボタンで[日付選択]を選び、[MENU/SET]ボタンを押す

2 ▲/▼/◀/▶ボタンで再生する日付を選び、[MENU/SET]ボタンを押す

- 撮影した画像が1枚もない月は表示されません。

■ 絞り込む日付を変更する

1 一枚再生の状態で▲ボタンを押す

2 ▲/▼ボタンで[日付の変更]を選び、[MENU/SET]ボタンを押す

3 ▲/▼/◀/▶ボタンで再生する日付を選び、[MENU/SET]ボタンを押す

- 初めに選ばれる日付は、再生画面で選んでいた画像の撮影日になります。
- 同じ日付で複数の撮影画像がある場合は、その日の最初に撮影された画像が表示されます。
- カレンダーの表示できる範囲は、2000年1月から2099年12月までです。
- [時計設定]を行わずに撮影した場合、2013年1月1日に表示されます。
- [ワールドタイム]で旅行先を設定して撮影された画像は、旅行先の日時でカレンダー表示されます。

カレンダー検索

撮影した日付から画像を検索することができます。

1 ▲/▼/◀/▶ボタンで検索する日付を選ぶ

- 撮影した画像が１枚もない月は表示されません。

2 [MENU/SET]ボタンを押して、画像を一覧表示する

- マルチ再生（30 画面）で表示されます。選択した日付の先頭の画像にカーソルが当たります。

3 ▲/▼/◀/▶ボタンで画像を選び、[MENU/SET]ボタンを押す

- 検索を続けたい場合は、ズームレバーをW側に回し、前の画面に戻ってください。(P33)

- 初めに選ばれる日付は、再生画面で選んでいた画像の撮影日になります。
- 同じ日付で複数の撮影画像がある場合は、その日の最初に撮影された画像が表示されます。
- カレンダーの表示できる範囲は、2000年１月から2099年12月までです。
- [時計設定]を行わずに撮影した場合、2013年１月１日に表示されます。
- [ワールドタイム]で旅行先を設定して撮影された画像は、旅行先の日時でカレンダー表示されます。

撮影した写真で楽しむ(レタッチする)

撮影した写真の色合いを整えたり、お好みの効果を加えることができます。

- 加工した写真は新しく作成されますので、内蔵メモリーまたはカードの容量に余裕があることを確認してください。また、カードの書き込み禁止スイッチが「LOCK」側になっていると、加工できません。
- 写真によっては、効果が分かりにくい場合があります。
- 他機で撮影した写真には加工できない場合があります。

かんたんレタッチ

撮影した写真の明るさや色のバランスを整えることができます。

※ 画像は効果を説明するためのイメージです。

1 **◀/▶ ボタンで写真を選び、▲ ボタンを押す**

- [スライドショー](P74)や[絞り込み再生](P76)で再生する画像を絞り込んでいる場合、選択画面が表示されます。▲/▼ ボタンで[レタッチ]を選び、[MENU/SET]ボタンを押すと手順 **2** に進みます。
- 再生メニューから[レタッチ]を選択しても、手順 **2** に進みます。

2 **▲/▼ ボタンで[かんたんレタッチ]を選び、[MENU/SET]ボタンを押す**

3 **▲/▼ ボタンで[ON]を選び、[MENU/SET]ボタンを押す**

- 確認画面が表示されます。[はい]を選ぶと実行されます。

- 写真によっては、かんたんレタッチ後に、ノイズが強調される場合があります。
- すでにレタッチされた写真には、かんたんレタッチできない場合があります。
- 以下の画像には加工できません。
  - 動画
  - パノラマモードで撮影された写真
  - シーンモードの[フォトフレーム]で撮影された写真

ビューティレタッチ

エステやメイクアップ効果を加えて顔の印象を華やかに変えることができます。

1 ◀/▶ ボタンで写真を選び、▲ ボタンを押す

- [スライドショー] (P74) や [絞り込み再生] (P76) で再生する画像を絞り込んでいる場合、選択画面が表示されます。▲/▼ ボタンで [レタッチ] を選び、[MENU/SET] ボタンを押すと手順 **2** に進みます。
- 再生メニューから [レタッチ] を選択しても、手順 **2** に進みます。

2 ▲/▼ ボタンで [ビューティレタッチ] を選び、[MENU/SET] ボタンを押す

3 ◀/▶ ボタンで編集したい人物の顔を選び、[MENU/SET] ボタンを押す

- 矢印の付いている人物のみ選択できます。
（1人しか検出されない場合は、[MENU/SET] を押してください）

4 ▲/▼ ボタンで項目を選び、▶ ボタンを押す

以下の項目ごとにそれぞれの効果が選べます。

項目	設定内容
[ ]（エステレタッチ）	肌の透明感を出したり、テカリを抑えたり、目や歯の色をより白くきれいに見せることができます。
[ ]（ベースメイク）	ファンデーションの色を調整します。
[ ]（メイクアップレタッチ）	リップ、アイメイク、チークによりメイク効果を加えて顔の印象を華やかに変えることができます。 5種類の効果から選ぶことができます。

5 ▲/▼ ボタンで効果を選ぶ

- 続けて別の効果を加えるときは ◀ ボタンを押し、手順 **4**、**5** を繰り返してください。

6 写真の編集が終わったら、[MENU/SET] ボタンを押す

- 確認画面が表示されます。[はい] を選ぶと適用前と適用後の画面が表示されます。

7 [MENU/SET] ボタンを押す

- 確認画面が表示されます。[はい] を選ぶと実行されます。

- 一度に2人以上の人物は編集できません。一度写真を保存してから人物を選び直してください。
- 保存する前に確認した写真と保存した写真とは明るさや色合い、効果の度合いが異なる場合があります。
- 以下の画像には加工できません。
  – 動画
  – パノラマモードで撮影された写真
- 他機で撮影された写真にはビューティレタッチできない場合があります。
- 顔の検知がうまくできていない場合、意図どおりのレタッチができないことがあります。
- 眼鏡をかけている場合、意図どおりのレタッチができないことがあります。
- フラッシュ、日光等の反射光で明るい場合は、レタッチ効果が薄くなる場合があります。
- ビューティレタッチに適した写真を撮るには：
  – 顔を正面から大きく撮影する
  – 極端に暗い場所での撮影を避ける
  – レタッチをかけたい部分をはっきりと撮影する
- ReallusionはReallusion社の商標です。

REALLUSION

クリエイティブレタッチ

撮影した写真にお好みの効果を加えることができます。

1 ◀/▶ ボタンで写真を選び、▲ ボタンを押す

- [スライドショー] (P74)や[絞り込み再生] (P76)で再生する画像を絞り込んでいる場合、選択画面が表示されます。▲/▼ボタンで[レタッチ]を選び、[MENU/SET]ボタンを押すと手順**2**に進みます。
- 再生メニューから[レタッチ]を選択しても、手順 **2** に進みます。

2 ▲/▼ ボタンで[クリエイティブレタッチ]を選び、[MENU/SET] ボタンを押す

3 ▲/▼ ボタンで作例写真から画像効果を選び、[MENU/SET] ボタンを押す

- クリエイティブコントロールモードと同じ操作で以下の効果を加えることができます。
  [ポップ]/[ハイキー]/[ローキー]/[セピア]/[ダイナミックモノクローム]/[インプレッシブアート]/[ハイダイナミック]/[クロスプロセス]/[ワンポイントカラー]
- ▶ ボタンを押すと、選択されている画像効果の説明が表示されます。
- それぞれの効果について、詳しくは 50 ～ 53 ページをお読みください。
- [ワンポイントカラー]で残したい色を設定する場合は、▲/▼/◀/▶ ボタンで画面中央の枠を動かして残したい色に合わせ、[MENU/SET]ボタンを押してください。

- [OFF]を選ぶと効果を加えていない画像が表示されます。レタッチの操作を進めるには、他の画像効果を選んでください。
  画像効果を加えない場合はメニューを終了してください。
- 確認画面が表示されます。[はい]を選ぶと実行されます。

- クリエイティブコントロールモードに比べて効果が弱い場合があります。
- 以下の画像には加工できません。
  – 動画
  – パノラマモードで撮影された写真

再生メニューを使う

再生メニューの設定方法は P35

撮影した画像を切り抜くなどの編集やプロテクト設定などができます。

- [レタッチ]、[リサイズ(縮小)] または [トリミング(切抜き)]は、編集した画像を新しく作成します。内蔵メモリーまたはカードの空き容量がない場合、新しい画像を作成することができませんので、容量に余裕があることを確認してから画像の編集を行うことをお勧めします。

レタッチ

撮影した写真に [かんたんレタッチ]、[ビューティレタッチ]、[クリエイティブレタッチ] の効果を加えることができます。

- 詳しくは、79 ページをお読みください。

リサイズ(縮小)　画像サイズ(画素数)を小さくする

ホームページ用やメール添付などで送信しやすいように、画像の容量(記録画素数)を小さくします。

1 再生メニューから[リサイズ(縮小)]を選ぶ

2 ▲/▼ボタンで[1枚設定]または[複数設定]を選び、[MENU/SET]ボタンを押す

3 画像、サイズを選ぶ

[1枚設定]選択時

1 ◀/▶ボタンで画像を選び、[MENU/SET]ボタンを押す

2 ◀/▶ボタンでサイズを選び、[MENU/SET]ボタンを押す

- 確認画面が表示されます。[はい]を選ぶと実行されます。
  実行後はメニューを終了してください。

[複数設定]選択時

1 ▲/▼ボタンでサイズを選び、[MENU/SET]ボタンを押す

2 ▲/▼/◀/▶ボタンで画像を選び、[MENU/SET]ボタンを押す(繰り返す)

- もう一度[MENU/SET]ボタンを押すと設定が解除されます。
- ◀ボタンで[実行]を選び、[MENU/SET]ボタンを押して決定します。
- 確認画面が表示されます。[はい]を選ぶと実行されます。
  実行後はメニューを終了してください。

- [複数設定]で一度に設定できるのは50枚までです。
- リサイズ(縮小)を行うと画質が粗くなります。
- 他機で撮影された画像はリサイズ(縮小)できない場合があります。
- 以下の画像はリサイズ(縮小)できません。
  – 動画
  – パノラマモードで撮影された写真
  – 日付焼き込みされた画像

再生メニューの設定方法は P35

✂トリミング（切抜き） 画像を切り抜く

撮影した画像の必要な部分を拡大して切り抜くことができます。

1 再生メニューから[トリミング（切抜き）]を選ぶ

2 ◀/▶ボタンで画像を選び、[MENU/SET]ボタンを押す

3 ズームレバーと▲/▼/◀/▶ボタンで切り抜く部分を選ぶ

ズームレバー（T）： 拡大
ズームレバー（W）： 縮小

▲/▼/◀/▶ボタン： 移動

4 [MENU/SET]ボタンを押す

● 確認画面が表示されます。[はい]を選ぶと実行されます。
実行後はメニューを終了してください。

● トリミング（切抜き）を行うと画質が粗くなります。
● 他機で撮影された写真はトリミング（切抜き）できない場合があります。
● 以下の画像はトリミング（切抜き）できません。
– 動画
– パノラマモードで撮影された写真
– 日付焼き込みされた画像

再生メニューの設定方法は P35

★ お気に入り

画像にマークを付け、お気に入り画像として設定しておくと、以下のことができます。
- お気に入りに設定した画像のみ再生する。（[絞り込み再生]の[お気に入り]）
- お気に入りに設定した画像のみスライドショーする。
- お気に入りに設定した画像以外を消去する。（[お気に入り 以外全消去]）

1 再生メニューから[お気に入り]を選ぶ

2 ▲/▼ボタンで[1枚設定]または[複数設定]を選び、[MENU/SET]ボタンを押す

3 画像を選び、[MENU/SET]ボタンで設定する
- もう一度[MENU/SET]ボタンを押すと設定が解除されます。
- 設定後はメニューを終了してください。

[1枚設定]

◀/▶ボタンで選びます。

[複数設定]

▲/▼/◀/▶ボタンで選びます。

■ [お気に入り]設定を全解除する

1 再生メニューから[お気に入り]を選ぶ

2 ▲/▼ボタンで[全解除]を選び、[MENU/SET]ボタンを押す
- 確認画面が表示されます。[はい]を選ぶと実行されます。
  実行後はメニューを終了してください。

- 999枚まで設定できます。
- 他機で撮影された画像は、[お気に入り]設定ができない場合があります。

再生メニューの設定方法は P35

プリント設定

DPOFプリントに対応したお店やプリンターでプリントするときに、画像、枚数や日付プリントを指定することができます。詳しくは、お店にお尋ねください。
内蔵メモリーの画像をお店でプリントするときは、カードにコピー(P90)してから［プリント設定］の設定をしてください。

1 **再生メニューから［プリント設定］を選ぶ**

2 **▲/▼ボタンで［1枚設定］または［複数設定］を選び、［MENU/SET］ボタンを押す**

3 **画像を選び、［MENU/SET］ボタンを押す**

［1枚設定］

◀/▶ボタンで選びます。

［複数設定］

▲/▼/◀/▶ボタンで選びます。

4 **▲/▼ボタンでプリント枚数を設定し、［MENU/SET］ボタンで決定する**

- ［複数設定］選択時は、手順**3**、**4**を繰り返してください。（一括設定することはできません）
- 設定後はメニューを終了してください。

■［プリント設定］を全解除する

1 **再生メニューから［プリント設定］を選ぶ**

2 **▲/▼ボタンで［全解除］を選び、［MENU/SET］ボタンを押す**

- 確認画面が表示されます。［はい］を選ぶと実行されます。
  実行後はメニューを終了してください。

再生メニューの設定方法は ☞ P35

■ 日付をプリントする

プリント枚数設定時、▶ボタンを押すごとに日付プリントを設定/解除できます。

- 日付プリントを設定しても、お店やプリンターによっては日付プリントできない場合があります。詳しくは、お店に尋ねるか、プリンターの説明書をお読みください。
- 日付焼き込みされた画像に日付プリントは設定できません。

- プリント枚数は0から999枚まで設定できます。
- プリンターによっては、プリンター側の日付プリント設定が優先される場合がありますので、お気をつけください。
- 他機で設定した[プリント設定]は利用できない場合があります。そのときはすべて解除してから再設定してください。
- 以下の画像はプリント設定できません。
  – 動画
  – DCF規格に準拠していないファイル

再生メニューの設定方法は ☞ P35

プロテクト

画像を誤って消去することがないように、消去したくない画像にプロテクトを設定することができます。

1 再生メニューから[プロテクト]を選ぶ

2 ▲/▼ボタンで[1枚設定]または[複数設定]を選び、[MENU/SET]ボタンを押す

3 画像を選び、[MENU/SET]ボタンで設定する

- もう一度[MENU/SET]ボタンを押すと設定が解除されます。
- 設定後はメニューを終了してください。

[1枚設定]

◀/▶ボタンで選びます。

[複数設定]

▲/▼/◀/▶ボタンで選びます。

■ [プロテクト]設定を全解除する

1 再生メニューから[プロテクト]を選ぶ

2 ▲/▼ボタンで[全解除]を選び、[MENU/SET]ボタンを押す

- 確認画面が表示されます。[はい]を選ぶと実行されます。
  実行後はメニューを終了してください。

- [プロテクト]設定は本機以外では無効になる場合がありますので、お気をつけください。
- 画像をプロテクトしても、フォーマットした場合は消去されます。
- 画像をプロテクトしなくても、カードの書き込み禁止スイッチを「LOCK」側にしておくと、消去はされません。

再生メニューの設定方法は　P35

画像コピー　内蔵メモリーの画像をコピーする

撮影した画像データを内蔵メモリーからカード、カードから内蔵メモリーにコピーすることができます。

1 再生メニューから[画像コピー]を選ぶ

2 ▲/▼ボタンで画像データのコピー方向を選び、[MENU/SET]ボタンを押す

[IN→SD](IN→SD)：内蔵メモリーからカードへ全画像が一括コピーされます。

[SD→IN](SD→IN)：カードから内蔵メモリーへ1枚ずつコピーされます。◀/▶ボタンで画像を選び、[MENU/SET]ボタンを押してください。

- 確認画面が表示されます。[はい]を選ぶと実行されます。
  実行後はメニューを終了してください。
- コピー中は電源を切らないでください。

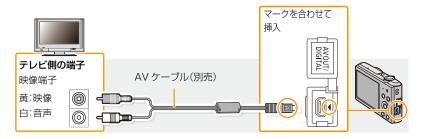
- [IN→SD]時、コピーする画像と同じ名前(フォルダー番号/ファイル番号)の画像がコピー先にある場合、新しいフォルダーを作成してコピーします。
  [SD→IN]時は、同じ名前(フォルダー番号/ファイル番号)の画像がコピー先にある場合、その画像はコピーされません。
- コピーに時間がかかる場合があります。
- [プリント設定]、[プロテクト]設定または[お気に入り]設定はコピーされません。コピー後に設定し直してください。

テレビで見る

本機で撮影した画像をテレビ画面で再生できます。

準備：[TV画面タイプ] (P39)を設定する。
本機の電源を切り、テレビの電源も切っておく。

1 本機とテレビをつなぐ

- 端子の向きを確認して、プラグを持ってまっすぐ抜き差ししてください。
（向きを逆にすると、端子が変形して故障の原因になります）
- 当社製 AV ケーブル（別売）をお使いください。
– 品番：DMW-AVC1

2 テレビの電源を入れ、外部入力にする

3 本機の電源を入れ、[▶] を押す

- [記録画素数]によっては、画像の上下や左右に黒い帯が付いて表示されることがあります。
- 画像の上下の端が切れて表示される場合は、テレビの画面モードの設定を変更してください。
- 画像を縦にして再生すると、多少ぼやけることがあります。
- 画像が表示される際、テレビの機種によって画像が乱れる場合があります。
- 本機のスピーカーからは音声は出ません。
- テレビの説明書もお読みください。

■ テレビやブルーレイディスクレコーダー、DVDレコーダーなどにSDカードスロットがある場合

SDカードスロットにカードを入れてください。

- 写真を再生することができます。
- パノラマ写真は再生できない場合があります。また、パノラマ写真の自動スクロール再生はできません。
- テレビの機種によって、画像がテレビの全画面で表示されないことがあります。

写真や動画をパソコンに残す

本機をパソコンと接続すると、本機の画像をパソコンに取り込むことなどができます。

- お使いのパソコンによっては、取り出したカードから直接読み込むこともできます。詳しくは、パソコンの説明書をお読みください。
- **SDXCメモリーカードにパソコンが対応していない場合、フォーマットを促すメッセージが表示されることがあります。(撮影した画像が消去されますので、フォーマットしないでください)カードを認識しない場合は、下記のサポートサイトをご覧ください。**
  http://panasonic.jp/support/sd_w/

■ 使用できるパソコン

マスストレージデバイス(大容量記憶装置)を認識できるパソコンに接続することができます。

- Windowsの場合： Windows XP/Windows Vista/Windows 7/Windows 8
- Macの場合： OS X v10.1～v10.8

付属のソフトウェアを使う

付属のCD-ROMには、以下のソフトウェアが収録されています。
パソコンにインストールしてお使いください。

PHOTOfunSTUDIO 9.0 LE (Windows XP/Vista/7/8)
写真や動画をパソコンに取り込んだり、撮影日や機種名などで分類して整理するなど、画像を管理することができるソフトウェアです。さらに、DVDへの画像の書き込みや、加工、画像補正、動画の編集などもできます。

LoiLoScope -30日間フル体験版(Windows XP/Vista/7/8)
LoiLoScopeは、お手持ちのパソコンをフル活用する、簡単に動画編集できるソフトウエアです。今までになかった机の上でカードを並べるようにして作るアナログ操作は、覚えることなく初めてでも思いのままに操作し、DVD、Webサイト、メール等々を使い、素早く動画や写真を友達に届けることができます。 ● インストールされるのは、体験版ダウンロードサイトへのショートカットのみになります。
LoiLoScopeの詳しい使い方は、以下のサイトから「マニュアル」をダウンロードしてご覧ください。 **使い方Webサイト：http://loilo.tv/product/20**

■ ソフトウェアをインストールする

● CD-ROMを入れる前に、他の起動中のアプリケーションソフトをすべて終了してください。

1　お使いのパソコンの環境を確認する

●「PHOTOfunSTUDIO 9.0 LE」の動作環境

項目		
対応OS	Windows® XP(32 bit) SP3 Windows Vista®(32 bit) SP2 Windows® 7(32 bit/64 bit)およびSP1 Windows® 8(32 bit/64 bit)	
CPU	Windows® XP	Pentium® Ⅲ 500 MHz以上
	Windows Vista®	Pentium® Ⅲ 800 MHz以上
	Windows® 7	Pentium® Ⅲ 1 GHz以上
	Windows® 8	
ディスプレイ	1024×768以上(1920×1080 以上を推奨)	
搭載メモリ	Windows® XP	512 MB以上
	Windows Vista®	
	Windows® 7	1 GB以上(32 bit) 2 GB以上(64 bit)
	Windows® 8	
ハードディスク	インストールに450 MB以上の空き容量	

その他の動作環境について、詳しくは「PHOTOfunSTUDIO」の取扱説明書(PDF)をお読みください。

2　CD-ROMを入れる

●インストールメニューが起動します。

3　[アプリケーション]をクリックする

4　[おまかせインストール]をクリックする

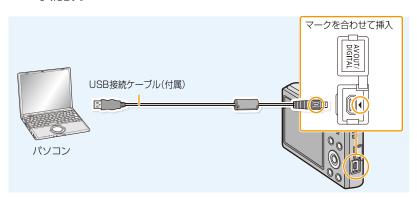
●画面のメッセージに従ってインストールを進めてください。

● お使いのパソコンに対応したソフトウェアのみがインストールされます。
● 「PHOTOfunSTUDIO」はMacでは使えません。

■ パソコンに画像を取り込む

準備：お使いのパソコンに「PHOTOfunSTUDIO」をインストールしておく。

1 USB接続ケーブル（付属）で本機とパソコンをつなぐ

- 本機とパソコンの電源を入れてから、つないでください。
- 端子の向きを確認して、プラグを持ってまっすぐ抜き差ししてください。（向きを逆にすると、端子が変形して故障の原因になります）
- 付属のUSB接続ケーブルまたは、当社製USB接続ケーブル（別売：DMW-USBC1）以外は使用しないでください。

2 ▲/▼ボタンで[PC]を選び、[MENU/SET]ボタンを押す

3 「PHOTOfunSTUDIO」を使って画像をパソコンにコピーする

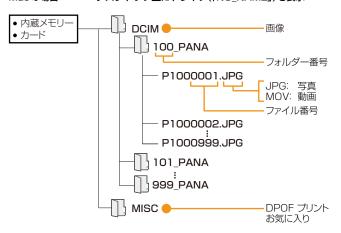
- コピーしたファイルやフォルダーを、Windows のエクスプローラーなどで消去や移動などを行わないでください。「PHOTOfunSTUDIO」を使って再生、編集などができなくなります。

- 接続中にバッテリー残量が少なくなると、警告音が鳴ります。
「安全にUSB接続ケーブルを取り外す」(P95)をお読みのうえ、USB接続ケーブルを抜いてください。データが破壊されるおそれがあります。
- カードの抜き差しは電源を切って、USB接続ケーブルを抜いてから行ってください。データが破壊されるおそれがあります。

■「PHOTOfunSTUDIO」を使わずにパソコンにコピーする

「PHOTOfunSTUDIO」がインストールできない場合は、パソコンに接続後、本機のファイルやフォルダーをパソコンにドラッグアンドドロップするとコピーできます。

本機の内蔵メモリー/ カードの中（フォルダー構造）は以下のようになります。

Windowsの場合：　「コンピューター」にドライブ（「リムーバブルディスク」）を表示
Macの場合：　デスクトップ上にドライブ（「NO_NAME」）を表示

- 以下の場合に撮影すると新しいフォルダーが作成されます。
  – 同じフォルダー番号のあるカードを挿入した場合（他社のカメラで撮影した場合など）
  – フォルダー内にファイル番号999の画像がある場合

■ 安全にUSB接続ケーブルを取り外す

パソコンの画面でタスクトレイの「　」アイコンを選び、「DMC-SZ3の取り出し」をクリックする

- お使いのパソコンの設定によっては、このアイコンが表示されない場合があります。
- アイコンが表示されていない場合は、デジタルカメラの液晶モニターに［通信中］が表示されていないことを確認してから取り外してください。

■ PTPモードで接続する

USB接続ケーブル接続時に、[PictBridge(PTP)] を選んでください。

- カードからパソコンへの読み込みのみ可能です。
- PTPモードでカードの中に1000枚以上の画像があると、取り込めない場合があります。

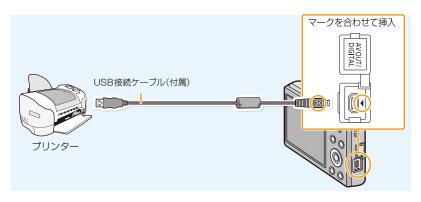
プリントする

PictBridgeに対応したプリンターに接続すると、本機の液晶モニター上でプリントする画像を選択したり、プリント開始を指示することができます。

- お使いのプリンターによっては、取り出したカードから直接プリントすることもできます。詳しくは、プリンターの説明書をお読みください。

準備: 本機とプリンターの電源を入れる。
内蔵メモリーの画像をプリントするときは、カードを抜いておく。
あらかじめプリンター側で印字品質などの設定をしておく。

1 USB接続ケーブル(付属)で本機とプリンターをつなぐ

- 端子の向きを確認して、プラグを持ってまっすぐ抜き差ししてください。(向きを逆にすると、端子が変形して故障の原因になります)
- 付属のUSB接続ケーブルまたは、当社製USB接続ケーブル(別売:DMW-USBC1)以外は使用しないでください。

2 ▲/▼ボタンで[PictBridge(PTP)]を選び、[MENU/SET]ボタンを押す

- 接続中にバッテリー残量が少なくなった場合は、警告音が鳴ります。すぐにプリントを中止してください。プリント中以外のときは、USB接続ケーブルを抜いてください。
- [ ](ケーブル切断禁止アイコン)表示中は、USB接続ケーブルを抜かないでください。(プリンターによって表示されない場合があります)
- カードの抜き差しは電源を切って、USB接続ケーブルを抜いてから行ってください。
- 動画はプリントできません。

画像を選んで１枚ずつプリントする

1 ◀/▶ボタンで画像を選び、[MENU/SET]ボタンを押す

2 ▲ボタンで[プリント開始]を選び、[MENU/SET]ボタンを押す

- プリント開始前に設定できる項目については、98 ページをお読みください。
- プリント終了後、USB接続ケーブルを抜いてください。

複数の画像を選んでプリントする

1 ▲ボタンを押す

2 ▲/▼ボタンで項目を選び、[MENU/SET]ボタンを押す

項目	設定内容
複数選択	複数の画像を選んでプリントします。 ● ▲/▼/◀/▶ボタンで画像を選び、[MENU/SET]ボタンを押してください。(もう一度[MENU/SET]ボタンを押すと設定が解除されます) ● 選択が終了したら◀ボタンを押して[実行]を選び、[MENU/SET]ボタンを押してください。
全画像	保存されているすべての画像をプリントします。
プリント設定（DPOF）	[プリント設定]で設定(P87)された画像のみをプリントします。
お気に入り	[お気に入り]設定(P86)された画像のみをプリントします。

3 ▲ボタンで[プリント開始]を選び、[MENU/SET]ボタンを押す

- プリント確認画面が表示された場合は、[はい]を選んでプリントしてください。
- プリント開始前に設定できる項目については、98 ページをお読みください。
- プリント終了後、USB接続ケーブルを抜いてください。

プリントの各種設定

「画像を選んで１枚ずつプリントする」の手順2、または「複数の画像を選んでプリントする」の手順3の画面で、それぞれの項目を選んで設定してください。

- 本機が対応していない用紙サイズやレイアウト設定でプリントしたい場合は、本機の用紙サイズ、レイアウト設定を[🖶]にして、プリンター側で設定してください。（詳しくはプリンターの説明書をお読みください）
- [プリント設定（DPOF）]選択時には、[日付プリント]と[プリント枚数]の項目は表示されません。

日付プリント

項目	設定内容
ON	日付プリントされます。
OFF	日付プリントされません。

- プリンターが日付プリントに対応していない場合は、日付をプリントすることができません。
- プリンターによっては、プリンター側の日付プリント設定が優先される場合がありますので、お気をつけください。
- 日付焼き込みされた画像をプリントする場合、日付プリントを指定すると、日付が重なってプリントされますので、日付プリントを[OFF]にしてください。

プリント枚数

プリントする枚数（最大999枚まで）を設定できます。

用紙サイズ

項目	設定内容
🖶	プリンターの設定が優先されます。
L/3.5″×5″	89 mm×127 mm
2L/5″×7″	127 mm×178 mm
はがき	100 mm×148 mm
16:9	101.6 mm×180.6 mm
A4	210 mm×297 mm

項目	設定内容
A3	297 mm×420 mm
10×15cm	100 mm×150 mm
4″×6″	101.6 mm×152.4 mm
8″×10″	203.2 mm×254 mm
レター	216 mm×279.4 mm
カード	54 mm×85.6 mm

- プリンターが対応していない用紙サイズは表示されません。

レイアウト（本機で設定可能なレイアウト）

項目	設定内容
[プリンター]	プリンターの設定が優先されます。
[1面縁なし]	1面縁なし印刷
[1面縁あり]	1面縁あり印刷

項目	設定内容
[2面]	2面印刷
[4面]	4面印刷

- プリンターが対応していない場合は、選択できない項目があります。

■ レイアウト印刷について

1枚の用紙に同じ画像を印刷する場合

例えば、1枚の用紙に同じ画像を4枚印刷する場合、[レイアウト]を[4面]、[プリント枚数]を4枚に設定してください。

1枚の用紙に異なる画像を印刷する場合

例えば、1枚の用紙に異なる画像を4枚印刷する場合、[レイアウト]を[4面]、[プリント枚数] を1枚に設定してください。

- プリント中にオレンジ色の[●]が表示されたときは、プリンターからエラーメッセージを受け取っています。プリント終了後にプリンターに異常がないか確認してください。
- プリント枚数が多い場合、複数回に分けてプリントされることがあります。このとき、残り枚数の表示は設定枚数と異なります。

画像に日付を入れるには

画像に日付を焼き込む

[日付焼き込み]を使って、画像に日付を焼き込むことができます。

- **お店やプリンターでプリントする場合は、日付が重なってプリントされますので日付プリントを指定しないでください。**

日付プリントを設定する

[プリント設定]のプリント枚数設定時に▶ボタンを押すと、押すごとに日付プリントを設定/解除できます。(P87)

お店に依頼する場合

設定さえしておけば、カードを取り出して、お店に日付入りで依頼するだけです。
(シーンモードの[赤ちゃん1]/[赤ちゃん2]、[ペット]の[月齢/年齢]で入力した文字のプリントはお店では依頼できません)

自宅でプリントする場合

日付プリントに対応しているプリンターに本機を接続して、プリントするだけで日付プリントができます。

- CD-ROM(付属)のソフトウェア「PHOTOfunSTUDIO」を使って日付プリントすることができます。

※日付プリントを設定しても、お店やプリンターによっては日付プリントできない場合があります。詳しくは、お店に尋ねるか、プリンターの説明書をお読みください。

別売品のご紹介

品名	品番
バッテリーパック※1	DMW-BCL7
バッテリーチャージャー※2	DMW-BTC11
本革ケース	DMW-CX60
ソフトケース	DMW-CFT1、DMW-CP9
ショルダーストラップ	DMW-SSTX1
USB 接続ケーブル	DMW-USBC1
AV ケーブル	DMW-AVC1

※1　AC アダプター(付属)を使って本機で充電できます。
※2　海外用変換プラグ(C タイプ)付き(P102)

記載の品番は2013年1月現在のものです。変更されることがあります。

別売品は販売店でお買い求めいただけます。
パナソニックの家電製品直販サイト「パナセンス」でお買い求めいただけるものもあります。

詳しくは「パナセンス」のサイトをご覧ください。
http://club.panasonic.jp/mall/sense/

携帯電話からもお買い求めいただけます。
http://p-mp.jp/cpm/

海外旅行先で使う

ACアダプター(付属)は、日本国内で使用することを前提として設計されておりますが、海外旅行等での使用は問題ありません。

- 電源電圧(100 V～240 V)、電源周波数(50 Hz、60 Hz)でご使用いただけます。
- 国、地域によって電源コンセントの形状は異なるため変換プラグが必要です。
  変換プラグは旅行会社や販売店にご相談のうえ、お求めください。
- ご使用にならないときは、AC アダプター(付属)と変換プラグを電源コンセントから外してください。
- 市販の変圧器などを使用すると、故障するおそれがありますので、使用しないでください。

変換プラグの付け方

主な国、地域の代表的な電源コンセントのタイプ

北米											
アメリカ合衆国	A	カナダ	A	ハワイ	A						
ヨーロッパ											
イギリス	BF,B3	イタリア	C(C2)	オーストリア	C(C2),SE	オランダ	C(C2),SE	ギリシャ	A,B,B3,C(C2),SE	スイス	A,B,C(C2),SE
スウェーデン	B,C(C2),SE	スペイン	A,C(C2),SE	デンマーク	C(C2)	ドイツ	A,C(C2),SE	ノルウェー	C(C2)	ハンガリー	C(C2)
フィンランド	B,C(C2)	フランス	A,C(C2),SE	ベルギー	B,C(C2),SE	ロシア	A,C(C2),SE				
アジア											
インド	B,BF,B3,C(C2)	インドネシア	B,B3,C(C2),SE	シンガポール	B,BF,B3	タイ	A,BF,C(C2)	大韓民国	A,C(C2),SE	台湾	A,C(C2),O
中華人民共和国	すべて	フィリピン	A,O	ベトナム	A,BF,C(C2),SE	香港特別行政区	B,BF,B3,C(C2)	マカオ特別行政区	B,BF,B3,C(C2)	マレーシア	B,BF,B3,C(C2)
オセアニア											
オーストラリア	O	グァム島	A	サイパン島	A	トンガ	O	ニュージーランド	O	フィジー	A,B,C(C2),O
中南米											
アルゼンチン	BF,C(C2),SE	プエルトリコ	A,BF,C(C2)	ブラジル	A,C(C2),SE	メキシコ	A,C(C2),SE				
中東・アフリカ											
アラブ首長国連邦	B,BF,B3	エジプト	BF,B3,C(C2),SE	クウェート	B,B3,C(C2)	トルコ	A,B,C(C2),SE	南アフリカ共和国	B,BF,B3,C(C2)	モロッコ	A,C(C2),SE

タイプ	A	B	BF	B3	C(C2)	SE	O
	アメリカンタイプ	U.K. タイプ			ヨーロピアンタイプ		オーストラリアンタイプ
コンセント形状							
プラグ形状	不要です						

海外のテレビで画像を見る

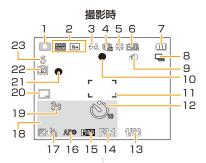
セットアップメニューの[ビデオ出力方式]で[NTSC]または[PAL]に設定してください。

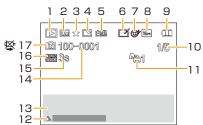
時計を海外旅行先の時刻に合わせる

セットアップメニューの[ワールドタイム]で旅行先を設定すると、旅行先の時刻に切り換わります。

液晶モニターの表示

液晶モニターの画面表示は、本機の操作状態を示しています。

撮影時

1 撮影モード
2 画質設定(P73)
記録画素数(P61)
逆光補正(P25):
3 フラッシュモード(P44)
4 手ブレ補正(P71)
手ブレ警告(P22):
5 ホワイトバランス(P63)
6 カラーモード(P69)
7 バッテリー残量(P15)
8 連写(P68)
9 暗部補正(P67)
10 フォーカス(P28)
11 AF エリア(P28)
12 セルフタイマーモード(P47)
13 シャッタースピード(P27)
14 絞り値(P27)
15 ISO感度(P62)
16 AF補助光(P70)
17 露出補正(P48)
18 月齢/年齢(P59)
現在日時
ワールドタイム(P37):
ズーム表示(P42):
EZ W T 1X
19 記録経過時間(P29):XXmXXs※
20 日付焼き込み(P72)
21 記録動作(P29)
22 内蔵メモリー(P18)
カード(P18):(記録時のみ表示)
23 記録可能枚数(P20)
記録可能時間(P20、29):残XXmXXs※

※ mは「minute(分)」、sは「second(秒)」を省略した表示です。

1 再生モード(P74)
2 プロテクト(P89)
3 お気に入り表示(P86)
4 日付焼き込み済み表示(P72)
5 カラーモード(P69)
6 かんたんレタッチ済み(P79)
クリエイティブレタッチ済み(P82)
7 ビューティレタッチ済み(P80)
8 記録画素数(P61)
9 バッテリー残量(P15)
10 画像番号
トータル枚数
再生経過時間(P32)：XXmXXs※
11 プリント枚数(P87)
12 かんたんレタッチ(P79)
クリエイティブレタッチ(P82)
ビューティレタッチ(P80)
動画再生(P32)
パノラマ再生(P55)
13 撮影日時
ワールドタイム(P37)：
撮影情報(P41)
月齢/年齢(P59)
14 フォルダー・ファイル番号(P95)
15 動画記録時間(P32)：XXmXXs※
16 画質設定(P73)
17 内蔵メモリー(P18)
ケーブル切断禁止アイコン(P96)

※ mは「minute(分)」、sは「second(秒)」を省略した表示です。

メッセージ表示

確認/エラー内容を液晶モニターに文章で表示します。
ここではその主なメッセージを例として説明しています。

メッセージ	原因・対策
この画像はプロテクトされています	画像のプロテクトを解除してから(P89)消去をしてください。
消去できない画像があります/ この画像は消去できません	DCF規格に準拠していない画像は消去できません。 パソコンなどに必要なデータを保存してから本機でフォーマット(P40)してください。
この画像には設定できません	DCF規格に準拠していない画像は[プリント設定]ができません。
内蔵メモリー残量がありません/ メモリーカード残量がありません/ 内蔵メモリー残量が不足しています/ メモリーカード残量が不足しています	内蔵メモリーまたはカードの空き容量がありません。 内蔵メモリーからカードへコピーしている場合(一括コピー)、カードの空き容量がなくなるまで画像はコピーされています。
コピーできない画像がありました/ 画像をコピーすることができませんでした	以下の画像はコピーできません。 ● コピーする画像と同じ名前の画像がコピー先にある場合(カードから内蔵メモリーへのコピー時のみ) ● DCF規格に準拠していないファイル また、本機以外で撮影した画像や編集された画像はコピーできない場合があります。
内蔵メモリーエラー/ フォーマットしますか?	パソコンでフォーマットした場合など、このメッセージが表示されます。本機でフォーマット(P40)し直してください。データは消去されます。
メモリーカードエラー 本機では使えない状態です。 フォーマットしますか?	本機では使用できないフォーマットです。 ● 別のカードを入れてお試しください。 ● パソコンなどを使って必要なデータを保存してから本機でフォーマット(P40)し直してください。データは消去されます。
電源を入れ直してください/ システムエラー	レンズに手などで力が加わり、正常に動作しなかった場合に表示されます。再度、電源を入れ直してください。それでも表示される場合は、お買い上げの販売店にご連絡ください。
メモリーカードエラー/ カードのパラメータが異常です/ このカードは使用できません	本機に対応したカードをお使いください。(P18) ● SDメモリーカード(8 MB~2 GB) ● SDHCメモリーカード(4 GB~32 GB) ● SDXCメモリーカード(48 GB、64 GB)
カードを入れ直してください/ 別のカードでお試しください	● カードへのアクセスに失敗しました。もう一度カードを入れ直してください。 ● miniSDカード/microSDカード/microSDHCカードは、必ずアダプターに入れてから本機に挿入してください。 ● 別のカードを入れてお試しください。

メッセージ	原因・対策
リードエラー/ライトエラー カードを確認してください	● データの読み込みまたは書き込みに失敗しました。電源を切ってからカードを抜いてください。再度カードを入れ、電源を入れて記録または読み込みしてください。 ● カードが破壊されている可能性があります。 ● 別のカードを入れてお試しください。
カードの書込み速度不足のため記録を終了しました	● 動画撮影の際は、SDスピードクラスが「Class6」以上のカードを使用してください。 ● 「Class6」以上のカードを使用しても停止した場合は、データの書き込み速度が低下しているので、バックアップをとりフォーマット(P40)することをお勧めします。カードの種類によっては、途中で動画撮影が終了する場合があります。
フォルダーを作成できません	使用できるフォルダー番号がなくなったため、フォルダーを作成できません。 パソコンなどを使って必要なデータを保存してから本機でフォーマット(P40)してください。
16:9TV用で出力します/ 4:3TV用で出力します	● [TV画面タイプ]を変更したい場合は、セットアップメニューで変更してください。(P39) ● USB接続ケーブルが本機のみに接続された場合も、メッセージが表示されます。USB接続ケーブルのもう一方をパソコンやプリンターに接続すると、このメッセージは消えます。(P94、96)
このバッテリーは使えません	● パナソニック純正品のバッテリーをお使いください。それでも表示される場合は、お買い上げの販売店にご連絡ください。 ● バッテリーの端子部が汚れている場合は、端子部のごみなどを取り除いてください。

Q & A　故障かな？と思ったら

まず、以下の方法(P107～113)をお試しください。

それでも解決できない場合は、**セットアップメニューの[設定リセット]**(P39)**を行うと症状が改善する場合があります。**
これらの処置をしても直らないときは、取扱説明書 基本操作編の「保証とアフターサービス」をお読みください。

■ バッテリー、電源について

Q(質問)	A(回答)
充電ランプが消灯したのに、充電ができていない。または充電ランプが点滅する。	● 温度が極端に高い、または低いところで充電しているときの現象です。 → 周囲の温度が10 ℃～30 ℃(バッテリーの温度も同様)のところでUSB接続ケーブル(付属)をつなぎ直し、再度充電をお試しください。(満充電後は、USB接続ケーブル(付属)をつなぎ直すと、約15秒間充電ランプが点灯します)
電源を入れても動作しない。またはすぐに切れる。	● バッテリーが消耗しています。充電してください。 ● 電源を入れたまま放置しているとバッテリーは消耗します。 → [自動電源 OFF](P38)を使うなどして、こまめに電源を切ってください。
カード/バッテリー扉が閉じない。	● バッテリーを確実に奥まで挿入してください。(P13)

■ 撮影について

Q(質問)	A(回答)
画像が撮れない。	● 内蔵メモリーまたはカードのメモリー残量はありますか？ → 不要な画像を消去して容量を増やしてください。(P34) ● 容量の大きなカードをご使用の場合は、電源を入れたあとしばらくの間撮影できないことがあります。
撮影した画像が白っぽい。	● レンズに指紋などの汚れがつくと画像が白っぽくなることがあります。 → 汚れたときは、電源を入れ、レンズ鏡筒を出した状態で固定し、レンズの表面を柔らかい乾いた布で軽くふき取ってください。
撮影した画像が明るすぎたり、暗すぎる。	→ 露出が正しく補正されているか確認してください。(P48)
1回の撮影で、複数の画像が撮れるときがある。	→ 撮影メニューの[連写](P68)を[OFF]に設定してください。

■ 撮影について（続き）

Q（質問）	A（回答）
ピントが合わない。	● 撮影モードによってピントが合う範囲が異なります。 → 被写体までの距離に応じたモードに設定してください。 ● ピントが合う範囲から外れています。(P28) ● 手ブレや被写体ブレしています。(P22)
撮影した画像がブレている。 手ブレ補正が効かない。	→ 暗い場所で撮影するときは、シャッタースピードが遅くなるので、本機を両手でしっかり持って撮影してください。(P22) → 遅いシャッタースピードで撮影するときは、セルフタイマー(P47)を使って撮影してください。
撮影した画像が粗い。 ノイズが出る。	● ISO感度が高い、またはシャッタースピードが遅くありませんか？ （お買い上げ時は、ISO感度が[iISO]に設定されているため、屋内などの撮影ではノイズが出ます） → ISO感度を低くしてください。(P62) → 明るい場所で撮影してください。 ● シーンモードの[高感度]または撮影メニューの[連写]を[H]、[ ]に設定していませんか？ 高感度処理のため画像が少し粗くなりますが、異常ではありません。
撮影した画像の明るさや色合いが実際とは異なる。	● 蛍光灯や LED などの照明下での撮影時、シャッタースピードが速くなると、明るさや色合いが多少変化する場合があります。これは光源の特性により発生するものであり、異常ではありません。
撮影時やシャッター半押し時に、液晶モニターに赤っぽい縦すじが出たり、液晶モニターの一部または全体が赤っぽくなることがある。	● CCDの特徴であり、被写体に明るい部分があると出ます。周辺にムラが発生する場合がありますが、異常ではありません。動画撮影では記録されますが、写真には記録されません。 ● 太陽光などの強い光源が画面付近に入らないように撮影することをお勧めします。
動画撮影が途中で止まる。	● 動画撮影の際は、SDスピードクラスが「Class6」以上のカードを使用してください。 ● 使用するカードによっては、途中で動画撮影が終了する場合があります。 → 「Class6」以上のカードを使用しても停止した場合や、パソコンやその他の機器でフォーマットされたカードを使用している場合は、データ書き込み速度が低下しているので、バックアップをとり本機でフォーマット(P40)することをお勧めします。
パノラマモードでの撮影が途中で止まる。	● カメラを動かす速度が遅いと、カメラの動きを止めたと判断して撮影が終了します。 ● カメラを動かすときに撮影方向に対しての揺れが大きいと、撮影が終了します。 → パノラマモードでの撮影時は、撮影方向と並行に小さな円を描くようにして、半周を約 4 秒の速さ（目安）でカメラを動かしてください。

■ 液晶モニターについて

Q（質問）	A（回答）
液晶モニターが、暗くなったり一瞬明るくなったりする。	● この現象は、シャッターボタンを半押ししたときに撮影時の絞り値を設定するもので、撮影画像に影響はありません。 ● ズーム操作をしたときや、本機を動かしたときに明るさが変化した場合にもこの現象が発生することがありますが、本機の自動絞り動作によるもので、異常ではありません。
室内で液晶モニターがちらつく。	● 電源周波数が50 Hzの地域では、電源を入れてから数秒間、液晶モニターがちらつく場合があります。これは蛍光灯や LED などの照明器具の影響によるちらつきを補正している動作で、異常ではありません。
液晶モニターが明るすぎたり、暗すぎたりする。	● ［モニター調整］を行ってください。(P38)
液晶モニターの画面上に黒、赤、青、緑の点が現れる。	● これは故障ではありません。これらの点は記録されませんので、安心してご使用ください。
液晶モニターにノイズが出る。	● 暗い場所では、液晶モニターの明るさを維持するためにノイズが出ることがあります。撮影する画像に影響はありません。

■ フラッシュについて

Q（質問）	A（回答）
フラッシュが発光しない。	● ［⊛］に設定していませんか？ → フラッシュモードを変更してください。(P44) ● 以下の場合にはフラッシュは使用できません。 – クリエイティブコントロールモード(P49) – パノラマモード(P54) – シーンモード(P56)の［風景］/［夜景］/［夕焼け］/［星空］/［ガラス越し］ – ［連写］撮影時（［⚡］を除く）(P68)
フラッシュが複数回発光する。	● 赤目軽減(P44)にしている場合は、2回発光します。 ● 撮影メニューの［連写］(P68)を［⚡］に設定していませんか？

■ 再生について

Q（質問）	A（回答）
再生した画像が意図しない方向に回転して表示される。	● [縦位置自動回転]（P39）を[ ]または[ ]に設定しています。
再生できない。 撮影した画像がない。	● 内蔵メモリーまたはカードに再生できる画像はありますか？ → カードが入っていない場合は内蔵メモリーの画像データ、入っている場合はカードの画像データが表示されます。 ● パソコンで加工したフォルダーや画像ではないですか？この場合、本機で再生することはできません。 → パソコンからカードに画像を書き込む場合は、CD-ROM（付属）のソフトウェア「PHOTOfunSTUDIO」を使うことをお勧めします。 ● [スライドショー]や[絞り込み再生]で画像を絞り込んで再生していませんか？ → 絞り込みを解除してください。（P76）
フォルダー・ファイル番号が[ー]で表示されたり、画面が黒くなる。	● 規格外の画像やパソコンで編集された画像、または他社のデジタルカメラで撮影した画像ではないですか？ ● 撮影直後にバッテリーを取り出したり、残量が少なくなったバッテリーで撮影していませんか？ → このような画像を消去するには、フォーマット（P40）してください。 （他の画像も消去され、元に戻すことができませんので、よく確認してからフォーマットしてください）
カレンダー検索で、撮影した日付と異なる日付に画像が表示される。	● 本機の時計設定を正しい日時に設定して撮影しましたか？（P21） ● パソコンで編集された画像や他機で撮影された画像では、カレンダー検索時、撮影した日付と異なる日付で表示されることがあります。
撮影した画像にシャボン玉のような白く丸い点が写り込んでいる。	● 室内や暗い場所でフラッシュを使って撮影した場合に、空気中のほこりがフラッシュに反射して白く丸い点として写り込むことがありますが、異常ではありません。 撮影ごとに丸い点の位置や数が変化するのが特徴です。

■ 再生について（続き）

Q（質問）	A（回答）
撮影した画像の赤い部分が黒く変色している。	● デジタル赤目補正（[⚡A👁]、[⚡S👁]）が動作しているとき、肌色に近い色とその内側に赤い模様などがある被写体を撮影した場合、デジタル赤目補正機能の働きにより、その赤い部分が黒く補正されることがあります。 → フラッシュモードを[⚡A]、[⚡]、[⊛]または[デジタル赤目補正] を [OFF] にして撮影することをお勧めします。(P70)
画面に「サムネイル表示」と表示される。	● 他機で撮影された写真ではありませんか？その場合、画質が劣化して表示されることがあります。
撮影した動画の音声が途切れる。	● 動画撮影時、本機は絞りを自動的に調整します。そのときに記録された音声が途切れることがありますが、異常ではありません。
本機で撮影した動画が他機で再生できない。	● 本機で撮影した動画は他社製デジタルカメラでは再生できない場合があります。また、当社製デジタルカメラ（LUMIX）※においても再生できない場合があります。 ※ 2008年12月以前発売分、および2009年発売のFS、LSシリーズ

■ テレビ、パソコン、プリンターについて

Q（質問）	A（回答）
テレビに画像が出ない。 テレビ画面が流れたり色が付かない。	● 正しく接続されていますか？ → テレビの入力切換を外部入力にしてください。 → 本機の[ビデオ出力方式]を[NTSC]に設定してください。(P39)
テレビ画面と本機の液晶モニターの表示される領域が違う。	● テレビの機種によっては、画像が縦や横に伸びたり、画像の端が切れて表示されることがあります。
テレビで動画の再生ができない。	● カードを直接テレビに差し込んで再生していませんか？ → AVケーブル（別売）をテレビに接続し、本機で動画を再生してください。(P91)
テレビ画面いっぱいに画像が表示されない。	→ 本機の[TV画面タイプ]を確認してください。(P39)
パソコンとの通信ができない。	● 正しく接続されていますか？ ● パソコンが本機を正常に認識していますか？ → 接続時に[PC]を選んでください。(P94) → 本機の電源を入れ直してください。

■ テレビ、パソコン、プリンターについて（続き）

Q（質問）	A（回答）
パソコンにカードが認識されない。（内蔵メモリーになっている）	→ USB接続ケーブルを抜き、カードを入れた状態でUSB接続ケーブルを接続し直してください。 → 1 台のパソコンに 2 つ以上の USB 端子がある場合、別の USB 端子に接続してみてください。
パソコンにカードが認識されない。（SDXCメモリーカードを使用している）	→ お使いのパソコンがSDXCメモリーカードに対応しているか確認してください。 **http://panasonic.jp/support/sd_w/** → 接続時にカードのフォーマットを促すメッセージが表示されることがありますが、フォーマットしないでください。 → 液晶モニターの「通信中」の表示が消えない場合、電源を切ってからUSB接続ケーブルを抜いてください。
プリンターに接続して、プリントができない。	● PictBridgeに対応していないプリンターではプリントできません。 → 接続時に[PictBridge (PTP)]を選んでください。(P96)
プリントすると、画像の端が切れる。	→ トリミング（切抜き）や「縁なし」印刷機能のあるプリンターをお使いのときは、トリミング（切抜き）または「縁なし」の設定を解除してお試しください。（プリンターの説明書をお読みください） → お店によっては、横縦比を[16:9]に設定して撮影した画像を16:9のサイズでプリントできる場合がありますので、事前にお店にお尋ねください。
パノラマ写真がうまくプリントできない。	● パノラマ写真は、横縦比が通常の写真と異なるため、正しく印刷できない場合があります。 → パノラマ写真に対応したプリンターをお使いください。（詳しくはプリンターの説明書をお読みください） → CD-ROM（付属）のソフトウェア「PHOTOfunSTUDIO」を使って、プリントする用紙に合わせて写真のサイズを調整することをお勧めします。

■ その他

Q（質問）	A（回答）
シャッターボタンを半押しすると、赤いランプが点灯することがある。	● 暗い場所ではピントを合わせやすくするために、AF補助光ランプが赤く点灯します。
AF補助光が点灯しない。	● 撮影メニューの[AF補助光]を[ON]に設定していますか？(P70) ● 明るい場所ではAF補助光は点灯しません。
本機が熱くなる。	● ご使用中、本機表面が多少熱くなることがありますが、性能・品質には問題ありません。
レンズ部から「カチッ」と音がする。	● ズーム動作や本機を動かしたときなどに明るさが変化した場合、レンズ部から音がし、液晶モニターの画像が急激に変わることがありますが、撮影に影響はありません。このときの音は本機の自動絞り動作によるもので、異常ではありません。
時計が合っていない。	● 本機を長期間放置すると、時計がリセットされることがあります。 →「時計を設定してください」とメッセージが出ますので、再度時計設定をしてください。(P21)
ズームを使って撮影すると画像が僅かにゆがんだり、被写体の周りに実際にはない色が付く。	● ズームの倍率によってはレンズの特性上僅かにゆがんだり、輪郭などに着色して撮影されることがありますが、これらは異常ではありません。
ズームの動きが一瞬止まる。	● EX光学ズーム時、ズームの動きが一瞬止まりますが、異常ではありません。
ファイル番号が連続して記録されない。	● 特定の操作を行ったあとに操作を行うと、それまでとは異なった番号のフォルダーの中に画像が記録されることがあります。
ファイル番号がさかのぼって記録される。	● 電源を切らずにバッテリーを出し入れした場合、撮影していたフォルダー・ファイル番号を記憶することができません。したがって、再度電源を入れて撮影した場合、ファイル番号がさかのぼって記録されることがあります。
カードをフォーマットできない。	● インテリジェントオートモードではフォーマットできません。他の撮影モードに変更してください。(P23)

使用上のお願い

本機について

磁気が発生するところや電磁波が発生するところ（電子レンジ、テレビやゲーム機など）からはできるだけ離れて使う

- テレビの上や近くで操作すると、電磁波の影響で画像や音声が乱れることがあります。
- スピーカーや大型モーターなどが出す強い磁気により、記録が損なわれたり、画像がゆがんだりします。
- マイコンを含めたデジタル回路の出す電磁波により、お互いに影響を及ぼし、画像や音声が乱れることがあります。
- 本機が影響を受け、正常に動作しないときは、バッテリーやACアダプター（付属）を一度外してから、あらためて接続し電源を入れ直してください。

電波塔や高圧線が近くにあるときは、なるべく使わない

- 近くで撮ると、電波や高電圧の影響で撮影画像や音声が悪くなることがあります。

付属のコード、ケーブルを必ず使用してください。別売品をお使いの場合は、別売品に付属のコード、ケーブルを使用してください。
また、コード、ケーブルは延長しないでください。

周囲で殺虫剤や揮発性のものを使うときは、本機にかけない

- かかると、外装ケースが変質したり、塗装がはげるおそれがあります。
- ゴム製品やビニール製品などを長期間接触させたままにしないでください。

お手入れについて

お手入れの際は、バッテリーを取り出しておく、または電源プラグをコンセントから抜き、乾いた柔らかい布でふいてください。

- 汚れがひどいときは、水に浸した布をよく絞ってから汚れをふき取り、そのあと、乾いた布でふいてください。
- ベンジン、シンナー、アルコール、台所洗剤などの溶剤は、外装ケースが変質したり、塗装がはげるおそれがありますので使用しないでください。
- 化学雑巾をご使用の際は、その注意書きに従ってください。

液晶モニターについて

- 液晶モニターを強く押さえないでください。画面にムラが出たり、故障の原因になります。
- 寒冷地などで本機が冷えきっている場合、電源を入れた直後は液晶モニターが通常より少し暗くなります。内部の温度が上がると通常の明るさに戻ります。

液晶モニターは、精密度の高い技術で作られていますが、液晶モニターの画面上に黒い点が現れたり、常時点灯（赤や青、緑の点）することがあります。これは故障ではありません。液晶モニターの画素については99.99%以上の高精度管理をしておりますが、0.01%以下で画素欠けするものがあります。またこれらの点は、内蔵メモリーやカードの画像には記録されませんのでご安心ください。

レンズについて

- レンズ面を強く押さないでください。
- レンズを太陽に向けたまま放置すると、集光により故障の原因になります。屋外や窓際に置くときにはお気をつけください。

バッテリーについて

本機で使用するバッテリーは、充電式リチウムイオン電池です。
このバッテリーは温度や湿度の影響を受けやすく、温度が高くなる、または、低くなるほど影響が大きくなります。

使用後は、必ずバッテリーを取り出す

- 取り出したバッテリーはポリ袋に入れ、金属類（クリップなど）から離して保管、持ち運びしてください。

出かけるときは予備のバッテリーを準備する

- スキー場などの寒冷地では撮影できる時間がより短くなりますので、お気をつけください。
- 旅行をされるときは、現地でバッテリーを充電できるようにACアダプター（付属）と USB 接続ケーブル（付属）も忘れずに準備してください。海外で使う場合は、変換プラグが必要なときがあります。(P102)

バッテリーを誤って落下させてしまった場合、端子部が変形していないか確認する

- 端子部が変形したまま本機に入れると、本機を傷めます。

バッテリーの外装ラベルをはがしたり、傷つけたりしない

- 外装ラベルの一部またはすべてがはがれていたり、破れているバッテリーを使用すると、故障の原因になります。

不要になった電池は、捨てないで充電式電池リサイクル協力店へご持参ください。

使用済み充電式電池の届け先

最寄りのリサイクル協力店へ
詳細は、一般社団法人JBRCのホームページをご参照ください。

- ホームページ　http://www.jbrc.net/hp

充電式
リチウムイオン
電池使用
Li-ion 20

使用済み充電式電池の取り扱いについて

- 端子部をセロハンテープなどで絶縁してください。
- 分解しないでください。

ACアダプター（付属）について

- ラジオ（特にAM受信中）の近くで使うと、ラジオに雑音が入る場合があります。使用時は1 m以上離してください。
- 使用中、AC アダプター（付属）の内部で発振音がする場合がありますが、異常ではありません。
- 使用後は、必ず電源コンセントから抜いてください。（接続したままにしておくと、最大約0.2 Wの電力を消費しています）

カードについて

カードを高温になるところや直射日光の当たるところ、電磁波や静電気の発生しやすいところに放置しない
また、折り曲げたり、落としたり、強い振動を与えない

- カードが破壊されるおそれがあります。また、カードの内容が破壊されたり、消失するおそれがあります。
- 使用後や保管、持ち運びするときはケースや収納袋に入れてください。
- カード裏の端子部にごみや水、異物などを付着させないでください。また手などで触れないでください。

メモリーカードを廃棄/譲渡するときのお願い
本機やパソコンの機能による「フォーマット」や「消去」では、ファイル管理情報が変更されるだけで、メモリーカード内のデータは完全には消去されません。

廃棄/譲渡の際は、メモリーカード本体を物理的に破壊するか、市販のパソコン用データ消去ソフトなどを使ってメモリーカード内のデータを完全に消去することをお勧めします。
メモリーカード内のデータはお客様の責任において管理してください。

個人情報について

赤ちゃんモードで誕生日を設定した場合は、カメラ内および撮影した画像に個人情報が含まれます。

免責事項

- 個人情報を含む情報は、誤操作、静電気の影響、事故、故障、修理、その他の取り扱いによって変化、消失することがあります。
  個人情報を含む情報の変化、消失が生じても、それらに起因する直接または間接の損害については、当社は一切の責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。

修理依頼または譲渡/廃棄されるとき

- 個人情報保護のため、設定をリセットしてください。(P39)
- 内蔵メモリーに画像がある場合は、必要に応じてメモリーカードにコピー(P90)をし、そのあと内蔵メモリーをフォーマット(P40)してください。
- メモリーカードは、本機より取り出してください。
- 修理をすると、内蔵メモリーおよび設定は、お買い上げ時の状態に戻る場合があります。
- 故障の状態により、本機の操作が困難な場合は、お買い上げの販売店までご相談ください。

メモリーカードを譲渡/廃棄する際は、上記の「メモリーカードを廃棄/譲渡するときのお願い」をお読みください。

画像を Webサービスにアップロードするとき

- 画像には、タイトル、撮影日時、位置情報など、個人を特定する情報が含まれる場合があります。Webサービスに画像をアップロードする際は、よくご確認のうえ、アップロードしてください。

長期間使用しないときは

- バッテリーは涼しくて湿気がなく、なるべく温度が一定のところに保管してください。
  （推奨温度：15 ℃～25 ℃、推奨湿度：40%RH～60%RHです）
- バッテリーとカードは必ず本機から取り出してください。
- バッテリーを入れたままにしておくと、本機の電源を切っていても、絶えず微少電流が流れています。
  これをそのままにしておくと過放電になり、充電してもバッテリーが使用できなくなるおそれがあります。
- 長期間保管する場合、1年に1回は充電し、バッテリー残量がなくなってから、本機から取り出して再保管することをお勧めします。
- 押し入れや戸棚に保管するときは、乾燥剤（シリカゲル）と一緒に入れることをお勧めします。

画像データについて

不適切な取り扱いにより故障した結果、記録したデータが破壊されたり、消滅したりすることがあります。記録したデータの消滅による損害については、当社は一切の責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。

三脚／一脚について

- 三脚を使用する場合は、本機を取り付けた状態で三脚が安定していることを確認してください。
- 三脚／一脚使用時は、カードやバッテリーが取り出せないことがあります。
- 三脚／一脚の取り付けまたは取り外し時に、ねじが斜めにならないようお気をつけください。無理な力で回すと本機のねじを損傷するおそれがあります。締めすぎると本体や定格ラベルを傷つけたり、はがしたりすることがありますので、お気をつけください。
- 三脚／一脚の説明書もよくお読みください。

－このマークがある場合は－

ヨーロッパ連合以外の国の廃棄処分に関する情報

このシンボルマークはEU域内でのみ有効です。
製品を廃棄する場合には、最寄りの市町村窓口、または販売店で、正しい廃棄方法をお問い合わせください。

- 本製品に付属するソフトウェアを無断で営業目的として複製（コピー）したり、ネットワークに転載したりすることを禁止します。
- 本製品の使用、または故障により生じた直接、間接の損害につきましては、当社は一切の責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。
- 本製品によるデータの破損につきましては、当社は一切の責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。
- 本書で説明する製品の外観と仕様は、改良により実際とは異なる場合があります。

この装置は、クラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

VCCI-B

さくいん

あ行

か行

さ行

た行

な行

は行

ま行

や行

ら行

わ行

英数字